

一當村磯崎神社神殿並境内ニ在ル踊り舞臺追々頽廢スレモ修繕
 スルノ術ナキヲ以テ村中協議ノ上自分共世話人トナリ各村有志
 者ニ謀リ鬮引講ト唱へ五百口ヲ募リ一口掛金三拾錢トシ十ヶ
 月ヲ一期トス毎月舊曆十一日ヲ會日ト定メ本日即チ明治十二年
 十一月二十六日舊曆十月十三日午後十時頃ヨリ當村西念寺本堂ニ於テ
 初會相催シ別冊鬮引講帳ニ記載スル方法ヲ以テブラリ百本金壹拾
 錢ヨリ末鬮大押壹本金貳拾五圓マテ鬮數百九拾貳本ノ内ブラリヨリ
 大節次鬮五本ノ内二本迄八拾七本ノ鬮振出シタル際御差押へニ
 相成タリ
 右ノ通り申立ルニ付金員配付殘金等ノ始末ヲ尋問スルニ左ノ申述
 ナシタリ

一惣鬮數五百一口金三拾錢ノ計金百五拾圓ノ内當鬮者へ配
 付殘金ノ始末方法左ノ如シ

一金百五拾圓

但現在金百貳拾貳圓六拾七錢

内

金九拾四圓

金拾八圓

金三拾三圓

金五圓

ブラリ百本ヨリ末鬮大押壹本
 迄九拾二本當鬮者ニ配付高
 滿座十ヶ月ノ後二度以下當鬮
 者へ割戻シ備金

磯崎神社營繕費備金

但此内ヨリ開會入費ヲ取ル
 五百口ヨリ壹錢當リヲ引キ去
 リ各自辨當料ニ渡ス

又各村ヨリ加入ノ者有之此ノ募リ方法ヲ尋問スルニ左ノ如ク申立

タリ
一世話人二十人中ヨリ各村知音ノ者ニ倚リ磯崎神社神殿等ノ額
廢云々ヲ説キ且講ノ方法ヲ示シ番號ヲ記載シタル竹札ヲ渡シ之
レニ姓名ヲ記シ銘々持參セシムルアリ又一村取纏メ世話人ノ元
へ取寄スルコアリ掛金モ亦同様ナリ

又西念寺ニテ講會開設スルハ住職講ノ方法承知シ居ルヤ否ヤ且席
料金何程渡スヤ若クハ席料等ハナキヤヲ尋問スルニ左ノ供述ヲナ
シタリ

一村中ノ旦那寺ナルヲ以テ外ニ場所無之故一時相談ノ上開會シ
決シテ席料等差立候義ニ無之候

右ノ通供出スルヲ以テ西念寺住職西林俊長へ始末尋問スルニ左ノ
申述ヲナシタリ

一自分儀講世話人等ヨリ講會相催スニ付本堂貸渡候様申出ルニ
ヨリ其意ニ任セ貸渡シ席料等受用候義ニ無之且講ノ方法等モ承
知不仕候

右ノ如ク申立ルニ付同村用掛矢山權次義講帳世話人中ニ姓名記載
アルヲ以テ講ノ方法且當日西念寺ニ於テ開會等ノ義承知シタルヤ
否ヲ豊村平四郎外十八名ノ者へ尋問スルニ左ノ如ク供出ス

一磯崎神社破損ニ付營繕費召募ノ爲メ講設立スルニ付世話人ト
ナリ吳レ候様トノ相談一應致シ置キタル故姓名ハ講帳ニ記載ア
レモ一切該事件ニ關係不仕固ヨリ方法ノ義モ相談不仕候

右ノ通申出ルニ付矢山權次へ始末尋問スルニ左ノ通供出シタリ
一自分儀磯崎神社云々ニ付營繕資金募リノ爲メ講設立スルニ付
世話人トナリ吳レ候様村中ヨリ示談スルヲ以テ承諾ハスルモ右

体富興行ノ体裁タル方法且本日開設ノ義モ承知セス然レモ右等ノ事件ヲ不氣付ニ差過タル段奉恐縮候

又豊村平四郎等へ帳簿ニ五百口ノ外二十五口ハ世話人二十五名分ト有之此二十五名ノ人名ヲ尋問スルニ左ノ申立ヲナシタリ

一講帳ニ記載スル世話人廿五名ハ五百口ヲ廿五組トシ一ト組ニ世話人壹名ト見積リ各村ヨリ金員等一時取纏メ持參セシ人ハ謝禮トシテ差遣スモノニテ講帳ニ記載スル世話人トハ別段ナリ

又名目ハ闡引講ヲリ設立スル原因ハ磯崎神社營繕費ノ資金ヲ募ルノ方術タリト雖モ尋常ノ講法ニ異ナリ器具等ヲ用ヒ其實ハ正シク

富興行ノ所業タリ此義如何相心得ルヤノ旨詰問スルニ左ノ申述ヲナシタリ

一富興行御制禁タルコトハ兼テ承知罷在タレモ聊富興行トハ体裁

ヲ異ニスルヲ以テ差支無之コト一時心得違シテ右体器具等ヲ用ヒ尋常ノ講法ト趣ヲ異ニシ富興行ノ所作ニ陥リタル段奉恐入候
右ノ通供出スルヲ以テ卑職共此証告書ヲ作り一讀ニ語スルニ各自甘結シ卑職共ト共ニ姓名手署調印仕候尤西念寺住職西林俊長用掛矢山權次義ハ該事件ノ情ヲ知ラサルコト明瞭ナルヲ以テ始末書ヲ徴シ豊村平四郎初メ十九名ハ親族へ保管セシメ則其証ヲ徴シ現場使用セシ器具並ニ場所金別紙目錄ノ通相添費下ニ奉呈ス

福岡縣筑前國粕屋郡新宮村

明治十二年十一月廿七日

平民 豊村平四郎印
同 金内新七印
同 豊村政右衛門印

同 松尾兵十印
 同 金内重右衛門印
 同 諸賀卯七印
 同 吉村傳吉印
 同 二島彌平印
 同 古川和吉印
 同 大原榮藏印
 同 笠井米吉印
 同 二島新兵衛印
 同 武元次助印
 同 井上吉兵衛印
 同 相島茂七印

同 相島直平印
 同 稻光卯七印
 同 松尾又兵衛印
 同 占部茂吉印
 青柳分署詰
 二等巡查柴田鉄之助印
 同 山本知次印
 一等巡查坂田耘平印
 三等警部寺内正實殿

由是觀之其所爲ノ正シク富興行タルヤ明瞭ナリトス依テ該犯等ハ
 明治元年十二月二十三日布告「富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近
 年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向

モ有之趣元來澆季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然
農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞
〜以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戻リ
候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事」トアルニ違犯タルヲ以テ雜犯律違令
條凡令ニ違フニ重キ者ハ答四十輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニ依リ
其發意者吉村傳吉金内新七松尾兵十ハ違令輕ニ問ヒ懲役三十日仍
ホ贖ヲ聽シ贖罪金各貳圓貳拾五錢豊村平四郎豊村政右衛門金内重
右衛門諸賀卯七二村彌平古川和吉大原榮藏武元次助井上吉兵衛相
島茂七相島直平稻光卯吉松尾亦兵衛占部茂吉二島新兵衛等ハ從ヲ
以テ論シ一等ヲ減シ懲役二十日ノ贖罪金各壹圓五拾錢笠井米吉ハ
年十五以下ナルヲ以テ名例律老小癡疾収贖條ニ依リ收贖金五拾錢
ニ處斷スヘキヲ相當ナリトス然ルヲ長崎裁判所福岡支廳ニ於テハ

富興行ニ類似ノ方法ヲ以テ頼母子講ヲ爲ス科違式ノ輕ニ問擬シ各
處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十二年十二月廿三日長崎裁判所福岡支廳ニ
於テ吉村傳吉外十八名ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

- 吉村傳吉
- 金内新七
- 松尾兵十

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律違令條違令輕ニ問ヒ懲役
三十日贖ヲ聽シ各

贖罪金貳圓貳拾五錢

豊村平四郎

豐村 政右衛門
 金内 重右衛門
 諸 賀 卯 七
 二 村 彌 平
 古 川 和 吉
 大 原 榮 藏
 武 元 次 助
 井 上 吉 兵 衛
 相 島 茂 七
 相 島 直 平
 稻 光 卯 吉
 松 尾 亦 兵 衛

第五百五十號
 贖罪金五拾錢

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律違令條違令輕ニ問ヒ懲役
 三十日從犯ナルニ依リ一等ヲ減シ懲役二十日贖ヲ聽シ各
 其贖罪金壹圓五拾錢
 笠 井 米 吉
 右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律違令條違令輕ニ問ヒ懲役
 三十日從犯ナルニ依リ一等ヲ減シ懲役二十日贖ヲ聽シ各
 其贖罪金壹圓五拾錢
 照シ

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十三年三月八日上告
明治十三年九月十六日判決

三重縣伊勢國飯高郡大

河内村平民

德田 助左衛門

明治十三年二月
四十二年六月

右助左衛門ニ明治十三年二月二十八日名古屋裁判所管内山田區裁判
所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀野呂貞助外七名ヨリ亡松田平兵衛等ニ宛タル借用金證券面
ノ金額百兩ハ素ト自分ヨリ平兵衛ニ無證券ニテ貸與ヘタル金ニ付
平兵衛存生中同人其負債者ノ許諾ヲ經タル上其證券面ニ負債者ノ
壹人タル佐野仁太ヲシテ自分ノ氏名ヲ記載セシメタル者ニシテ自
分カ明治十二年三月廿二日野呂貞助等ヨリ受取タル金九拾三圓三

拾三錢四厘ハ右貸金元利合計貳百餘圓ノ内ニ返辨受タル者ナリ決
シテ既ニ其義務ノ消滅セシ證券ナルヲ知リナカラ貞助等ニ於テ其
返金濟ノ證據ヲ舉ル能ハサルニ乘シ松田平三郎外壹人ト通同シ欺
取タル金ニハ非ラサル旨申立ルト雖モ第一共犯人松田平三郎佐野
仁太ノ既ニ其義務ノ滅盡セシ證券面ノ宛名等ヲ詐爲シ以テ通謀詐
術ヲ施シ野呂貞助外六名ヨリ金圓欺取タル等ノ供狀アリ第二當初
松田平三郎ヨリ該返金催促ノ爲ナル逆事主野呂貞助等ニ回達セシ
其證券寫ニ當時德田助左衛門ノ氏名ヲキテ以テ觀レハ果シテ佐野
仁太等陳述ノ如ク同人ヲシテ明治十二年一月中ニ至リ始テ其證券
面ニ己レカ氏名ヲ記載セシメシト判然タリ其他牽強附會以テ前顯
金九拾三圓餘ヲ欺取ルノミナラス仍ホ詐術ヲ逞フセシ爲平三郎ヲ
シテ其證券面詐爲ノ部分ニ付詐リノ證明書ヲ作り己レニ差入レシ

ノ以テ右證券元利金ノ殘額ナリ迎其請求ノ公判ヲ仰クニ至ル等其詐欺罪犯タルノ證憑明白ナルヲ以テ詐欺取財律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役三年ノ處從ニ付一等ヲ減シ懲役二年半申付候事
 德田助左衛門ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年三月八日大審院ニ差出タル上告狀ノ要領左ノ如シ

判文中明治十二年一月中旬ニ至リ始テ其證券面ヘ己カ氏名ヲ記載セシメシコ判然タリト有之處明治十一年十一月證券受取タル際佐野仁太ヘ問合タルニ右ハ明治四年四月頃松本佐一郎ヘ對談ノ上記入セシ由ニ付證據ノ爲メ自分氏名ノ下ヘ佐一郎ノ檢印ヲ押捺致サセ置タリ然ルニ佐野仁太ノ供述ニ依ルニ明治十二年一月ニ至リ記載セシメシコ判然タリトノ儀了解セス右ハ仁太郎及平三郎對審ノ上刑名宣告相成ヘキヲ其儀ナク斯ク錯誤ヲ生スルハ不法ナリ

判文中該金催促ノ爲メナル逆事主野呂貞助等ヘ回達セシ其證券寫ニ當時德田助左衛門ノ氏名ナキヲ以テ觀レハ云々トアリト雖モ當時ノ回達書ニ附着セシ證券寫面明瞭ニ宛名アリ右ハ平三郎ノ自書ナルヲ視レハ明治十二年一月ニ至リテ記入セサルハ判然タリ然ルニ唯平三郎等ノ供述ノミヲ以テ裁決相成タルハ不法ナリ
 判文中詐術ヲ逞フセン爲メ平三郎ヲシテ其證券面詐爲ノ部分ニ付詐ノ證明書ヲ作リトアリト雖右ハ平三郎ノ自筆ノ上實印押捺セシヲ何ヲ以テ詐爲ト認定ナリシヤ了解シ難ク自分ニ於テ公裁ヲ仰ク爲メ平三郎ニ托シ作爲セシ等更ニ覺ナシ然ルニ對審モナク裁決ナリシハ不法ナリ

山田區裁判所ニ於テ明治十二年三月二十日岡山藤平始メ外三名ニ對シ差引シタル金員ニハ非ル旨申上タル通り相違ナキニ依リ決審

之レ有ニ於テハ明白致スヲナルニ其儀ナキハ不法ナル趣上告及
リ

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

德田助左衛門カ野呂貞助等ヨリ金圓欺取タル證書類ハ詐爲ニ非ル
趣ニ申立ト雖モ松田平三郎カ明治十三年一月三十一日名古屋裁判
所管内山田區裁判所ニ於テ爲シタル口供ニ明治十二年二月頃助左
衛門へ渡置タル證券ヲ一見セシニ宛名松田平兵衛松田平三郎ノ次
ニ德田助左衛門殿ト書加へ其下ニ仁太ノ檢印アリ右ハ自分ヨリ依
頼セサルニ自儘ニ名前書加へタルハ意外ノ段申聞タル處助左衛門
ヨリ金員貸渡シタル體ニ爲サレハ不都合ニ付仁太へ情實ヲ明シ
記入致サセ負債主ニモ自カラ承諾ノ振ニ致シタリト申ニ付尙不承

知ノ段申聞タレト既ニ書入タル上ハ致方ナク若勝利ヲ得サルニ於
テハ入費悉皆引受ル趣申ニ付止ムヲ得ス其意ニ從ヒ置タリ元來名
實不判然ノ證券ヲ關係ナキ助左衛門ニ托シ出訴ニ及ハ自分不心得
且勝利ヲ得ルニ於テハ多少金員ヲ得ヘント存シ助左衛門ノ教示ニ
從ヒ屢官廳ヲ欺キタル段相違ナシ又助左衛門へ宛相渡シタル證券
ノ證明書ハ明治十二年七月十六日勸解不調ニ付安濃津支廳へ出訴
ノ際證明書ナクテハ不都合ノ趣助左衛門ヨリ申聞下案相渡シタル
ニ付乃チ下案ノ通相認メ押印ノ上助左衛門へ相渡タル旨趣ニ申立
ルノミナラス共犯者佐野仁太ノ陳述モ亦同一ナルヲ以テ觀レハ德
左衛門カ證券上債主ノ位置ニ其姓名ヲ詐テ記入シ且ツ平三郎ニ托
シ虛妄ノ證明書ヲ作ラシメ而テ野呂貞助等ヨリ金圓欺キ取リタル
ハ辨論ヲ費サルモ自ラ明確ナリトス左スレハ名古屋裁判所管内山

田區裁判所ニ於テ詐欺取財律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役三年ノ處從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役二年半申付タルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年二月二十八日名古屋裁判所管内山田區裁判所ニ於テ德田助左衛門ニ申渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ

第五百五十一號

○判文〔費用受寄財産ノ件〕明治十三年六月九日上告
明治十三年九月十六日判決

兵庫縣但馬國養父郡餅

耕地村平民

松下仁兵衛

明治十三年五月
三十七年五月

明治十三年五月三十一日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ右仁兵衛ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀水島淺右衛門等ヨリ受取ル地所賣戻代金ノ内貳百圓預リ中費用シタル旨申立レ其方ノ自供及ヒ關係人ノ申立ヲ觀ルニ最後ノ買主タル保田勘左衛門ニ於テ承諾ノ証ナケレハ其方ハ返リ証ノ期限後仍該証ニ依リ賣戻ヲ許諾シ該金圓ヲ詐取シタル者ト判決シ賊盜律詐欺取財條ニ照シ懲役十年ノ處五等ヲ酌減シ懲役二年申付ル

但金貳百圓ハ水島六兵衛へ下渡ス間明治八年四月五日國富寅五郎ト俱ニ水島六兵衛ヨリ買取ル地所券狀ハ名前書換ノ義水島六兵衛ニ申渡セシニ付其券狀受取タル上更ニ保田勘左衛門ニ書換

一引渡シ外ニ民事原告及ヒ引合人ノ入費金百貳拾八圓六拾五錢
五厘ハ國富寅五郎ト連帶シテ償却ス可シ
松下仁兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月九日大
審院ニ上告ノ要趣左ノ如シ

第一條 本件ノ由來

一去ル明治八年四月五日但馬國出石郡片間村水島六兵衛ヨリ同國
城崎郡豐岡國富寅五郎ト私兩人ニテ左ノ証書ノ如ク耕地ヲ買ヒ受
ケ而シテ同年十二月三十日限ノ賣戻シ証ヲ水島六兵衛ニ付與シタ
リ

田地讓渡証書之事

印紙

一田四町七畝廿五步

反別小前帳相添
但地券狀壹枚

此高三拾九石四斗五升七合

爲代金三百五拾八圓五拾三錢

右者今般書面之金券無據要用ニ付我等抱元地讓渡シ前書代金正
ニ請取候所實正也然ル上者以後貴殿御心之儘ニ御支配可被成候
尤諸掛物村並ニ御勤可有之候右田地ニ付故障妨申者更ニ無御座
候依之村用係リ世話人調印取之相渡候上ハ毛頭相違無御座候爲
後念讓証書依テ如件

出石郡六小區片間村

讓主 水島六兵衛印

右村世話人 秋庭惣七印

同 佐久間由豆流印

右村用係 水島淺右衛門印

明治八年

第四月五日

國富寅五郎殿

松下仁兵衛殿

前書之通相違無之仍テ與書調印候也

第二大區六小區戶長代理

副戶長 鳥居正文印

田地歸リ証文ノ事

印紙

但馬國出石郡片間村內

一田四町七畝廿五步

此高三拾九石四斗五升七合

此地代金三百五拾八圓五拾三錢

右ノ田地別紙本証文ヲ以テ我等兩人ニテ買受候處段々依頼ニ付

本年十二月三十日利子並諸費都合三百七拾圓聊無滯勘定被成候
ハ、無故障相戻シ可申候刀一右期限一日過去候共此証反古ニテ
一切戻シ不申候依之期限當日限リ田地戻シ証書仕渡申候處如件

第四大區四小區餅耕地

村

明治八年四月二日

松下仁兵衛印

壹大區一小區豐田町

國富寅五郎印

片間村

水島六兵衛殿

右買受耕地ヲ左ノ証書ノ如ク同年七月中ニ金圓入用之義有之ニ因
リ同國城崎郡豐岡中町保田勘左衛門へ賣リ渡シタリ

田地賣渡シ假証文ノ事

但馬國出石郡片間村之内

一田四町七畝廿五步

持主水島六兵衛

此高三拾九石四斗五升七合

此地代金三百五拾八圓五拾三錢也

右賣渡代金三百五拾八圓五拾三錢也

右之田地我等兩人出石郡片間村水島六兵衛ヨリ買受所持罷在候處此度金入用ニ付今般示談ノ上前顯代金ニテ貴殿へ賣渡申處確實也然ル處地券証表未タ銘々名前ニ書替無之ニ付追テ地券証相改貴殿名前ニ書換相渡シ候節夫々調印ヲ取本証文相渡シ可申候仍之爲後日之別紙六兵衛ヨリ買受証文並地券一筆限リ帳相添田地賣渡假証如件

第四大區四小區餅耕地

村

明治八年七月十六日

松下仁兵衛印

第一大區一小區豊田町

國富寅五郎印

保田勘左衛門殿

明治九年三月中同國出石郡片間村水島淺右衛門野村伊助兩人私方へ來リ前記買ヒ受ノ耕地賣戻シノ周旋ヲ依頼セシニ因リ保田勘左衛門へ示談シタル處當時相當ノ代金ナレハ賣戻シ遣ス趣ニ付其旨水島淺右衛門野村伊助兩人エ通達及ヒタルハ同年同月廿三日入金トシテ金貳百圓持參セシ故預リ置キ左ノ如キ領票ヲ付與シタリト記慮セリ

証

印紙

一金貳百圓也

右者元水島六兵衛ヨリ我等買受候耕地ノ義ニ付正ニ受取申候地券等ハ對談濟ノ上皆金受取相渡可申候也

第四大區餅耕地村

明治九年三月廿三日

松下仁兵衛印

水島淺右衛門殿

野村伊助殿

右受取リタル金貳百圓ヲ保田勘左衛門方へ私持參シタレヒ惣体ノ代金ヲ確定シテ後皆金ニ非ラサレハ受取ラサル由ニ付其趣水島淺右衛門野村伊助ニ報知及ヒタレヒ代價ヲ取極メサルハ勿論後金モ

差送り吳レノ等閑ニ致シ置クニ因リ賣リ戻シ周旋ノ義相斷リタル處是非共賣戻シ貰ヒ度故金貳百圓ハ預リ置キ吳レ連受取リ吳レノ時日ヲ過ス中同年五月中ニ不圖金圓多分入用ノ義出來右二百圓ヲ一時費用シタレヒ素ヨリ償還ノ意念ニ付其後金圓廻リ合セタル節ニ受取方ノ義ヲ水島淺右衛門野村伊助兩人ニ催促及ヒタレヒ右兩人ハ貳百圓出金セシヲ種子トナシ強テ耕地ヲ取戻サントノ志嚮ト相視へ受取リ吳レサルニ因リ明治十一年四月三日ニ至リ保田勘左衛門ニ左ノ如キ証書ヲ相渡シタリ

追証券

一但馬國第二大區六小區片間村田地四町七畝廿五步元水島六兵衛所持ノ處同人ヨリ明治八年四月五日拙者共へ買ヒ受罷在候處無據金子入用ニ付示談ノ上拙者共元買ヒ受之戸長奥印附ノ讓リ

証等相渡シ候得共同年十二月三十日ヲ期トシ代金元利調達致候
ハ、賣戻シ可申約定ニ付元賣主六兵衛買戻シ期限マテ假讓リ之
証ニテ代金正ニ受取申所確實也然ル所六兵衛義期限調金不致其
期ヲ過去リ候ニ付代價御出金濟ノ貴殿所有地ニ相違無之候因テ
ハ直ニ御相對地券証貴殿名義ニ御書替可被成候爲其退証券依テ
如件

國富寅五郎印

松下仁兵衛印

代書人 佐藤榮五郎印

明治十一年四月三日

保田勘左衛門殿

明治十一年十一月四日保田勘左衛門ヨリ國富寅五郎及ヒ自分ニ相
係リ地券証名前書換ノ義ヲ神戶裁判所姫路支廳へ上訴シ御審理中

明治十二年六月廿四日前記水島淺右衛門外壹名ヨリ預リタル金貳
百圓ヲ一時費用シタル代償還スル事ヲ供陳仕リ御糺問濟ノ後ニ至
リ右費用セシ金貳百圓上納致シタリ
却說前記金貳百圓ノ受取り証ヲ水島六兵衛ヨリ提供セシハ左ノ如
クニテ自分記臆スル前記ノ文意ト齟齬仕リ全ク偽書偽印ト相認メ
タルニ因リ其趣開陳仕リタル代御糺問中ニ此受取証ノ爲メ別ニ損
害ヲ受ルヲ無之ハ強テ偽書偽印ノ廉吟味ヲ願ハス代可ナラントノ
御申聞ケアリテ素ヨリ金貳百圓受取りタル義ハ相違無之故其受取
証ノ爲メ自分損害ヲ被ラサル義ナレハ強テ偽書偽印ノ廉ハ御吟味
ヲ相願ハサル段上申致シタリ

証

印紙

一金貳百圓也

右ハ水島六兵衛ヨリ我等讓リ受候耕地賣戻シ代金ノ内正ニ受取申候地券等ハ皆金決算ノ上相戻シ可申候也

第四大區餅耕地村

明治九年三月廿三日

松下 仁兵衛印

水島 淺右衛門殿

野村 伊助殿

第二條 判決ノ不服

判決文ニ(最後ノ買主タル保田勘左衛門ニ於テ承諾ノ証ナケレハ其方ハ返リ証ノ期限後仍該証ニ依リ賣リ戻シヲ許諾シ該金圓ヲ詐取シタル者ト判決シ賊盜律詐欺取財條ニ照シ懲役十年ノ處トアレモ金貳百圓ヲ一時費用セシモ素ヨリ不還ノ意念ニ無之已ニ上納致シ

タル義ニテ民事御審理中ニ保田勘左衛門代言人稻葉左仲ヨリ當時相應ノ代金ヲ一時ニ相渡スコナレハ賣リ戻シ遣スト申セシコアリト供出シ又御糺問中保田勘左衛門ニ於テモ賣リ戻シノ義松下仁兵衛ヨリ咄合アリタリト自供致シ居レハ保田勘左衛門ニ於テ一時賣戻シヲ承諾セシコハ明々瞭々ニシテ水島淺右衛門野村伊助等ヨリ金貳百圓ヲ受取りシ時賣戻シノコトヲ保田勘左衛門ノ承諾ナシト云フ可ラスシテ殊ニ陰謀詭計ヲ以テ金貳百圓ヲ取りタルモノニ無之故右貳百圓ヲ一時費用セシ科ハ免レサルモ賊盜律詐欺取財ニ問罪アリシハ承服ヲ得サルナリ

上告ノ主點

國富寅五郎ト連帶シテ水島六兵衛ヨリ買取り保田勘左衛門へ賣渡シタル地所ヲ再ヒ仁兵衛ヨリ水島淺右衛門野村伊助へ賣渡スヘシ

契約シ代價内金貳百圓ヲ領收セシハ勘左衛門ニ於テ賣戻ノ承諾アルヲ以テ之ヲ詐取セシニアラストノ事

辨明

第一條

上告人松下仁兵衛ニ於テ水島淺右衛門野村伊助ヨリ地代内金貳百圓ヲ領收セシハ明治九年三月二十三日ナリシコト授受双方ノ開陳スル所相吻合ス而シテ仁兵衛ノ保田勘左衛門ニ地所買戻ノ示談ヲナシ其承諾ヲ得シトノ申立ハ未タ確定ノ事ナラストスルモ勘左衛門カ明治十二年十二月十八日神戸裁判所姫路支廳ニ於テナシタル口供ヲ參觀スルニ「アノ地所望手有之ユヘ買モトシ度ト申シタレトモ只今テハ地面ノ代價モ出テ居ル折ユヘ無手テハイカス金サヘ積メハ讓ロマイモノテモナシト」仁兵衛ニ答ヘタルトアルニ照應シテ虛

構ノ言ナラサルヲ知ルニ足レリ然ルニ又勘左衛門ハ姫路支廳糾問掛ニ於テノ供述ヲ變更シ之ヲ仁兵衛ニ答ヘタルハ明治九年三月頃ニアラスシテ或ハ其年ノ暑時ナリシト思料スルトナスヲ以テ仁兵衛ノ淺右衛門共ヨリ地代内金ヲ領收セシトキハ未タ其承諾ヲ得サリシモノ、如シト雖モ畢竟獨リ勘左衛門ノ思料ニ止リ他ニ明白ナル証憑ナシトス

第二條

松下仁兵衛ニ於テ水島淺右衛門野村伊助ヨリ地代内金貳百圓ヲ領收セシハ水島六兵衛ニ本物返還ノ契約ヲ其期限後ニ履行シ或ハ六兵衛トノ關係ハ既ニ解散シタルニヨリ更ニ淺右衛門共ニ賣渡サントセシモノナルヤ否ハ契約鹿漏ニシテ分明ナラストス第一條ニ辨明スル如ク仁兵衛カ淺右衛門共ヨリ金圓ヲ領收セシハ保田勘左衛

門ヨリ更ニ代價ヲ議スレハ必スシモ賣戻サ、ルニアラストノ承諾
ヲ得シ後ナリシヤ否モ分明ナラスト雖モ仁兵衛カ該地所ヲ勘左衛
門へ賣渡シタルコトヲ六兵衛ニ告知セサルモ強テ之レヲ秘密シテ尙
自己ノ所有ナリト飾言シ詐欺ノ意匠ニ出シ確實ナル証憑ナキヲ以
テ淺右衛門等ヨリ受取タル金貳百圓ハ詐取シタルモノト見做シ難
シトス然リト雖モ仁兵衛カ該金ヲ費用シタルハ其費用スヘカラサ
ル金圓ナルコトヲ知リナカラ之ヲ費用シタルモノナレハ雜犯律費用
受寄財産條凡他人ヨリ財物畜産ノ寄託ヲ受ケ輒ク費用スル者ハ坐
贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアルニ擬シ坐贓贓金二百圓懲役一年ヨ
リ一等ヲ減シ懲役百日ニ處斷スヘキモノナリトス然ルヲ神戸裁判
所姫路支廳ニ於テハ最後ノ買主タル保田勘左衛門承諾ノ証ナキヲ
以テ詐欺取財條ニ照シ懲役二年ト處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト

ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年五月三十一日神戸裁判所姫路支廳ニ
於テ松下仁兵衛ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

松下仁兵衛

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ費用スヘカラサル寄託金ヲ費消
スル科費用受寄財産條ニ擬シ贓金貳百圓

懲役百日

但原裁判所ニ於テ宣告中但書ノ裁判ハ其當ヲ得タルヲ以テ破
毀ノ限ニ非ス

第五百五十二號

〇判文〔冒認ノ件〕明治十三年五月廿九日上告
明治十三年九月十六日判決

福岡縣筑前國福岡區因

幡町平民

宮川 鍛

明治十三年五月
四十九年四月

右鍛カ明治十三年五月五日同二十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲
シタル口供左ノ如シ

自分儀明治十一年十月中粗惡ナル太織羽織地ヲ春吉村紺屋職中川
屋事堤太平方へ染物ニ差遣シ置キ其後出來シタル趣ニ付自分受取
ニ參タルニ中川屋ヨリ自分ノ姓ヲ記シタル羽織地ヲ相渡ニ付受取
歸宅ノ上之ヲ改メ見ルニ自分ノ品ヨリ一層上等品位ニテ地柄モ宜
シキ様ニ見受タレ且紺屋ノ誤テ渡タルモノナレハ幸ヒト存シ其儘
羽織ニ裁縫シタル處廿日計リ經テ紺屋堤太平方ヨリ自分へ受取品

ハ春吉村宮川轍治方ノ染物ニテ渡方間違タル故取返シ度旨申來リ
始メテ春吉村宮川氏ノ品物ナルヲ承知シタレ且既ニ羽織ニ仕立
居タル故寧ロ之ヲ包藏シ染物屋ヲ欺キ自分ノ所得トナサント存シ
自分紺屋ニ向ヒ右ノ品物ハ既ニ豊前中津へ差送り最早所持無之旨
申僞リ實ハ自分ニ着用致居候處今般元雇人池田房太郎ヨリ右ノ始
末申出タル趣ニテ御取糺ヲ蒙リタル故再三事實相違ノ申立ヲ爲シ
タルモ遂ニ包ムニ由ナク有休白狀仕候義ニテ紺屋及ヒ池田房太郎
等ヨリハ自分カ曾テ染物ニ遣シタルハ吳呂服ニアリシ旨申立候趣
ナレ且自分ハ愈太織ノ粗惡ナル品ヲ染メニ遣シ置タル様相覺居候
事 明治十三年
五月五日
警察ニ於テ陳述ノ通り相違無御座尤裁縫ノ後中川屋ヨリ相違ノ旨
申來リ實ハ早速返還可致筈ニ候得共今更返還致スモ已ニ裁縫ノ後

ニ候得者甚不面目ト存シ其羽織ハ自分ノ有トナシ直段相違ノ所ハ
代金ヲ以テ可償ト相考ヘ終ニ前件ノ始末ニ到リ直ニ返還爲サ、ル
ノミナラス之ヲ使用致シタル段恐縮ノ至ニ候事 明治十三年
五月廿一日
右ノ口供ニ依リ明治十三年五月二十四日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ
左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十一年十月中兼テ堤太平へ染直シニ遣ハシタル吳呂服
羽織地受取ノ爲メ立越シタリシニ自己ノ姓ヲ記載セシ羽織地相渡
シタルニ付其吳呂服ト相心得歸宅ノ上之ヲ改メタリシニ其吳呂服
ヨリ一層上等ナル太織羽織地ニ之アリシニ付不圖惡意ヲ生シ之ヲ
羽織ニ裁縫シ使用スルノミナラス尙ホ太平ヨリ相違ノ旨通報シ其
返還ヲ請ヒ求メタリシニ自己ノ所有ニ歸セシメント企圖シ其返還
ヲ爲サ、ル科雜犯律費用受寄財産條ニ依リ他人ヨリ財物ノ寄託ヲ

受ケ輒シ費用シ死失ト詐言スルモノヲ以テ論シ竊盜ニ二等ヲ減シ
贓金壹圓以下懲役三十日可申付處情ヲ量リ一等ヲ減シ懲役二十日
贖ヲ聽シ贖罪金壹圓五拾錢申付ル

其羽織ハ取揚ル

福岡縣七等警部藤本重威ニ於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ控訴上告手
續第二十九條ニ依リ本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

宮川鍛別紙口供ノ通りノ罪跡アルヲ以テ小官ニ於テハ之ヲ賊盜律
詐欺取財條冒認ヲ以テ論スヘキ者ト認メ公訴ニ及タルニ判事安藤
源五郎ニ於テハ之ヲ雜犯律費用受寄財産條内死失ト詐言スル者ヲ
以テ論決シ本罪上ヨリ一等ヲ酌減シ仍ホ之レニ贖ヲ聽セリ夫レ寄
托ノ財産ヲ費用シテ死失ト詐言スル者ト他人ノ物ヲ冒認シテ自己
ノ利慾ヲ逞フスル者ト其情狀ノ徑庭アレハ少シク法律ヲ知ル者ノ

能ク解スル所ニシテ被告人宮川鍛ノ所爲ノ如キハ決シテ寄托ノ財物ヲ費用スル者ト云テ得ス加フルニ凡ソ犯罪ニ贖ヲ聽スハ過誤失錯連累其他不幸ニ出テ事矜憫ス可ク情原諒ス可クシテ的決シ難キ者ヲ處スルノ法タルトハ名例中載セテ明文アレハ被告人宮川鍛ノ犯罪ノ如キハ明治七年第三百三十四號公布ノ法章ニ依リ法官ノ酌量ヲ以テ或ハ正當ノ輕減ヲ得ルモ敢テ之ニ贖ヲ聽スヲ得サルモノナリ然ルナ判事安藤源五郎ニ於テハ冒認ヲ以テ論スヘキ犯罪ヲ費用受寄財産條ニ擬シ實斷スヘキノ本罪ヲ故ナクシテ之ニ贖ヲ聽セリ故ニ小官ニ於テハ之ヲ法律ニ違背セルノ裁判ト考量シ破毀ヲ求ムル所以也

辨明

本犯カ明治十三年五月五日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル口

供ニ〔節略〕染物職堤太平へ自分ノ姓ヲ記シタル羽織地ヲ渡スニ付之ヲ見ルニ自分ノ品ヨリ一層上等品ノ様見ケタルモ染物屋カ錯テ渡シタルモノナレハ幸ニ其儘羽織ニ裁縫シタリシニ爾後二十日可リヲ經テ該染物屋ヨリ他人ノ品ヲ錯テ授受シタル旨申來リタレヒ既ニ羽織ニ仕立居タル故之ヲ欺キ自分ノ所得トナサント存シ云々トアルニ據レハ則チ冒認者ヲ以テ論決スヘキモノナルニ原裁判所ノ裁判茲ニ出テス費用受寄財産條ニヨリ判斷セシカ故ニ福岡縣警部藤本重威カ上告理アルモノトス仍テ原裁判所カ明治十三年五月二十四日ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルト左ノ如シ

判決

宮川 鍛

自己ノ所有ニアラサルモノヲ以テ自己ノ所有ト詐僞スルモノ賊盜

律詐偽取財條冒認ヲ以テ論シ賍金壹圓以下懲役五十日ノ處情法ヲ酌量シ二等ヲ減シ

懲役三十日

但シ其羽織ハ取揚ル

第五百五十三號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十三年七月十四日上告
明治十三年九月十六日判決

熊本縣肥後國天草郡上

津深江村居住平民

吉田政七郎

明治十三年七月
四十八年

右政七郎カ所爲ニ對シ明治十三年七月六日熊本裁判所管内町山口區裁判所ニ於テ受タル裁判左ノ如シ

其方儀証告ノ一件審問ヲ遂ル處其方ニ於テ明治十二年八月中同村田浦玄壽宅ニ於テ三浦三和松ナル者ト飲酒ノ際右玄壽ノ妻「コト」ナル者へ金九圓三拾五錢ヲ入レタル懷中壹個ヲ相預ケタルハ田浦玄壽及ヒ其妻「コト」ニ於テハ更ニ相預リタル覺へ無之旨申立ルモ該事件ニ付テハ業已ニ玄壽夫婦ハ其金九圓三拾五錢ヲ賠償シ内濟ヲモ爲シタルヲ以テ之ヲ觀レハ則チ其方カ相預ケタルノ事實ハ固ヨリ相違アラサル者ノ如キモ凡ソ人タル者ハ其生命財產等ニ付テ巨大ノ妨害ヲ來タスアラントスルカ如キ場合ニ際シテ若シ夫レ僅々ノ金圓ヲ以テ其妨害ヲ防キ得可シト認ムルニ於テハ固ヨリ其相渡ス可カラサル金圓ヲ容易ニ之ヲ相渡スカ如キ情態アルハ蓋シ勢理ノ然ラシムル所ナリトス然リ然ルニ今其玄壽夫婦ノ如キハ該村ニ來住スル日尙ホ淺ク殊ニ醫業ノ身分ナレハ若シ其ノ金圓ヲ賠償セサ

ルニ於テハ將來營業上ニ於テ如何ナル妨害ヲ來タスアラソモ圖リ
 難シト苦慮スルヨリ遂ニ其金圓ヲ賠償シテ内濟ハ致シタル者ノ決
 シテ眞實相預リタル者ニハ非ラサル旨申立テ而シテ其玄壽夫婦ニ於
 テハ全ク内濟ハ致タル者ノ現ニ懷中ハ相返サ、ルノミナラス其相
 預ラサルノ事實ハ之ヲ三浦三和松外數名ノ手續書ニ徵スルモ自カ
 ラ相符合スルカラハ即チ其方ニ於テハ果シテ其懷中ニ相預ケタル
 者トハ爲スコトヲ得可カラサル者トス而ルニ況ンヤ其懷中ニ相預ケ
 タリト述スル者ハ獨リ其方一己カ口頭ノ陳述ニシテ見ル可キ証
 據ノ端緒タモ有セサルニ於テオヤ夫レ既ニ斯ノ如クナルハ則チ
 玄壽夫婦ハ素ヨリ法律上ニ於テ罪犯視スルヲ得可キ者ニ非ラサル
 ナリ然ラハ則チ今ヤ其方ニ於テハ全ク罪犯ニ非ラサル田浦玄壽及
 ヒ田浦「コト」ノ兩人ヲ誣告シタル者ト謂ハサルヲ得可カラス然ルニ

〔其田浦玄壽及ヒ田浦「コト」ノ罪犯タル素ト相預リタル者ヲ詐テ相預
 リタル覺ヘナシト云フキハ即チ不應爲輕ノ贖罪ニ該ル者タリ〕左ス
 レハ今其方ニ於テハ之ヲ誣告シタルヲ以テ即チ之カ反坐ノ罪ヲ受
 ケサルヲ得サル者トス依テ訴訟律誣告條ニ照シ不應爲輕ノ贖罪ニ
 反坐シ懲役三十日贖ヲ聽シ贖罪金貳圓貳拾五錢申付ル

但本文ノ筋合ナルニ依リ其田浦玄壽ヨリ賠償トシテ受取リタル
 金九圓三拾五錢ハ素ト受取ル可キ金圓ニ非ラサルヲ以テ同人へ
 返還ス可シ

吉田政七郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月十四日
 大審院ニ上告ノ要領左ノ如シ

本年二月廿日ニ到リ町山口警察署ニ於テ九等警部服部丑男殿尋問
 ノ席ニ於テ自分ヨリ差出置處ノ自首ニ兼告訴ノ三字ヲ書加エ可申

旨演達ニ相成候ニ付自分ニ於テハ兼告訴ノ三字ヲ書加エ候ハ自首
 書ノ書式ナルモノト相心得御受申上候處服部丑男殿ヨリ自分差出
 大置處ノ自首書ニ張紙ヲ以兼告訴ノ三字ヲ書加ニ相成タルモノナレ
 吉トモ其實際タルヤ自首書ニ聊相違無之又タ前記判文ヲ閱スルニ田
 浦玄壽及ヒ同人妻「コト」ノ口實ト三浦三和松外數名ノ手續書相符合
 スルハ全ク田浦玄壽夫婦ト三浦三和松外數名ト通謀シテ口供ヲ成
 シタルモノト推測ス何トナレハ田浦玄壽養子田浦乙吉ハ領田孫八
 ノ三男三浦三和松ノ妻「トヨ」ハ田浦乙吉ノ姉領田孫八ノ長女ナリ滿
 崎庄吉ハ田浦玄壽ノ妻「コト」ノ妹聲滿崎岩吉ノ弟ナリ是ニ依テ是ヲ
 見レハ一旦和解ヲ成シタル一件自分儀自首ヲ成シタルニ憤怒ヲ生
 シ親戚縁者通謀一致シテ詐欺ノ口供ヲ究ムルト雖モ自分ニ於テハ
 全ク預ケ置キタル金圓懷中ナレハ社左ニ登記スル詫書ニ數名ノ保

証人立會ヲ要シ金圓迄受取一旦私和ヲ取結ヒシモノ、前非悔悟仕
 實際自首ヲ成シタルニ町山口區裁判所ニ於テ誣告犯トノ裁判相成
 タルハ不服ニ有之依テ上告仕候

辨明

第一條

上告要領ニ本年二月二十日ニ至リ町山口警察署ニ於テ九等警部服
 部丑男カ自分ノ自首(明治十二年八月三十一日天草警察署富岡分署
 へ差出シオキタル)書ニ兼告訴ノ三字ヲ書加へ可申旨演達ニ付自分
 ハ兼告訴ノ三字ヲ書加フルハ自首書ノ書式ナルモノト相心得自首
 書ニ張紙ヲ以テ兼告訴ノ三字ヲ(服部警部カ)書加ニ相成タルモノナ
 レ凡其實際タルト自首書ニ相違無之云々申立ルトイヘ其自首書
 ニ兼告訴ノ三字ヲ警部ノ誘導ニヨリ加書セシナレ其自分ノ本意ニ

アラサル段原裁判所へ申立サルノミナラス已ニ其本年十三年二月二十四日町山口警察署ニ於テ爲シタル口供ノ末ニ相考へ候へハ何分發シタル罪跡アルモノヲ私和致置候テハ不相濟義ト相考候ニ付私和候趣ヲ自首旁立壽共夫婦ノ罪跡ヲ富岡分署へ御訴申上候トアリ又明治十三年七月六日町山口區裁判所ニ於テナシタル口供末段ニモ夫々金額取戻シ内濟ハ一旦整ヒタルモノ、最早立壽夫婦ノ罪跡斯ク相顯ハレタル上ハ其儘差置候テモ相濟マサル義ト存シ右ノ始末自首旁立壽夫婦ノ罪狀ヲ告訴シタル段ハ明治十三年二月二十四日町山口警察署警部ノ面前ニ於テ摺印ヲ爲シタル口供ノ通相違無之トアルヲ以テ見レハ上告人カ當初ヨリ真心悔悟自首ヲナシタルニアラスシテ畢竟立壽夫婦カ罪狀ヲ告訴スルノ意趣ニ出テタルト明々瞭々タリ仍テ原裁判所カ上告人カ悔悟ノ首出トナサズ即立

壽夫婦ヲ罪ニ陷レント告訴シタルモノトナシ允當ナリトス又田浦立壽及ヒ同人妻「コト」ノ口實ト三浦三和松外數名ノ手續書相符合スルハ全ク立壽夫婦ト三浦三和松外數名ト通謀シテ口供ヲ爲シタル云々申立ルトイヘ其通謀セシ現証ナキニ於テハ原裁判所カ右數人ノ陳供ヲ烏有ニ屬スヘカラサルヲ以テ上告人カナシタル告訴ハ乃チ誣告ナリト認定シタルハ相當ニシテ敢テ不當トナスヲ得ス

第二條

本犯ハ田浦立壽ノ妻「コト」ニ其曾テ預ケサルノ物ヲシテ預ケタリト誣ヒ終ニ金九圓三拾五錢ヲ詐取シ尙立壽夫婦ヲ告訴シタルモノナリ然レハ則詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シ九圓三拾五錢ノ賍懲役六十日ノ罪ヲ犯シタルモノトス而シテ尙ホ立壽夫婦ヲシテ反對ノ罪ニ陷イレント企タルヲ以テ同ク懲役六十日ノ處名例律犯罪自首條

中若シ人ノ告ント欲スルヲ知テ財主ノ所ニ於テ首還スルモノハ一
等ヲ減ストアルヲ以テ二等ヲ減シ懲役四十日ノ犯罪者ナリト誣告
シタルモノトス右科二罪俱發例ニ照シ一ノ重キ懲役六十日ニ處斷
スヘキニ原裁判所ノ裁判玆ニ出テス單ニ玄壽夫婦ノ犯罪タル素ト
預リタルモノヲ詐テ預リタル覺ヘナシト云フキハ即不應爲輕ノ贖
罪ニ該ルモノト速了ノ斷見ヲ下シ誣告者政七郎ヲシテ之ニ反坐ノ
刑ヲ科セシハ不當ノ裁判ナリトス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ其第二條原裁判所カ不應爲輕云々ノ宣告ヲ本
院ニ於テ平翻スルコト左ノ如シ

吉田政七郎

前辨明ノ第二條ノ如クナルニヨリ

懲役六十日

但其田浦玄壽ヨリサキニ領取シタル金九圓三拾五錢ハ取上事主
田浦玄壽ニ還付スヘシ

第五百五十四號

○判文(官有地ノ竹ヲ毀伐セシ件)明治十三年六月五日上告
明治十三年九月十六日判決

熊本縣平民肥後國八代

郡井上村百三十四番地

居住農

内田衛吉

明治十三年五月
三十四年

右衛吉カ明治十三年五月廿八日熊本裁判所管内八代區裁判所ニ於テ
審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀肥後國八代郡井上村ニ自分所有ノ畑之レアル處字明神免ノ官藪ハ日光ヲ遮リ該畑ノ障礙トナルニ付立竹伐採シ度ヨリ明治十三年三月十五日熊本縣へ該官藪拂下ケテ願置キタレヒ未タ許可ヲ受ケサル内該畑耕作ノ時節ニ差向ヘタルヲ以テ該官藪拂下願モ不日許可相成ル可クト考ヘ明治十三年四月五日ヨリ該官藪ノ立竹合セテ四束伐採シテ開墾致シ候

右伐採シタル立竹ハ其儘現在致シ居リ候前文相違不申上候以上右ノ口供ニ依リ明治十三年五月二十八日熊本裁判所管内八代區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方於テ肥後國八代郡井上村ニ其方所有ノ畑之レアル處字明神免ノ官藪ハ日光ヲ遮リ該畑ノ障礙トナルニ付立竹伐採シ度ヨリ明治十三年三月十五日熊本縣へ該官藪拂下テ願置キタレトモ未タ許可

ヲ受ケサル内該畑耕作ノ時節ニ差向ヘタルヲ以テ該官藪拂下ケ願モ不日許可相成ル可クト考ヘ明治十三年四月五日ヨリ該官藪ノ立竹合セテ四束伐採シテ開墾致シタリト申立ル始末ハ明治十三年五月二十二日熊本縣ニ於テ爲シタル口供官藪拂下ケ願寫官藪開墾手續書及ヒ内務省山林局備竹下和太郎増見直丈ノ告發書戸長佐伯賢太ノ官藪拂下願中開墾調書等ノ証左ニ符合スルニ依リ今ヤ其方カ申立ハ其方ニ於テ自由任意ノ申立ヲ爲スモノトナシ其申立ル所ノ事爲ヲ執テ之レヲ法律ニ照ラスニ抑モ其方カ熊本縣へ官藪拂下テ願置キ耕作ノ時節ニ差向ヘタルトテ未タ許可ヲ受ケサル内擅ニ立竹ヲ伐採シテ開墾シタル事爲ハ例第二百八十八條凡式ニ違フ者ハ懲役二十日輕キ者ハ一等ヲ減ストアツテ其違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス可キ罪ヲ犯シタルモノナルモ原告官熊本縣警部カ公訴スル所ノ戸

婚律棄毀器物稼穡條凡人ノ器物ヲ棄毀シ及ヒ樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス官物ハ一等ヲ加フトアルニ依テ論ス可キ罪ヲ犯シタルモノトハ爲スヲ得サルニ依リ茲ニ其方ヲ釋放ス

熊本縣九等警部長坂甚兵衛ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月五日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事ヨリ明治十三年七月三十日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ該犯内田衛吉ハ所有畑ニ接續スル字明神免官藪ハ自己該所有畑ノ日光ヲ蔽遮シ作障ヲ申立明治十三年三月十五日ヲ以テ該官藪拂下ヲ官ニ請願ナシ置キ未タ何分ノ指令ナキ前ニ於テ右出願シ置ク處ノ反別壹畝貳拾一步ノ内既ニ貳拾壹步ヲ同年四月五日以降私擅ニ地床生産ノ竹ヲ伐リ拂ヒ開墾セシ罪狀ナルヲ以テ戶婚律棄毀器物

稼穡條ノ罪アリトシ熊本裁判所管内八代區裁判所へ及公訴タル處同裁判所ニ於テハ之ヲ例第二百八十八條違式輕ニ問ヒ聽贖スルノ犯罪アリトスルモ原告官カ公訴スル處ノ戶婚律棄毀器物稼穡條凡人ノ器物ヲ棄毀シ及ヒ樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス官物ハ一等ヲ加フトアルニ依テ論スヘキ罪ヲ犯シタルモノトハ爲スヲ得サルトシ釋放申渡シタリ抑モ過誤失錯ニアラスシテ故意ヲ以テ他人ノ所有物ヲ毀棄スル所爲ハ即チ棄毀器物正條ニ依ラサルヲ得ス然レトモ一己ノ利益ヲ計ルニアラスシテ民費ニ係ル道路橋梁ヲ修築センカ爲メ擅伐供用セシモノハ人民共同ノ裨益ヲ計ルノ事實アルヲ以テ一般盜伐木ノ情狀ト異ナルニ依リ則チ御省七年第三十號御達ニ順シ違令輕重ニ擬ス可キモ本犯ノ如キハ一己ノ便益ヲ計ルニ出テ出願中ヲ口實トシテ妄リニ官山ヲ開墾セシ

モノナシテ何ソ違式ニ問フチ得ン故ニ本犯ノ事爲ニ於テハ正條ヲ以テ論シ其酌量スヘキ狀情アリトセハ法官見込ヲ以テ輕減スルハ其法アリ由シヤ法官ニ於テ本犯ヲ以テ本職見込ノ罪ニハアラスシテ例第二百八十八條違式ノ罪アリトナサハ直チニ其罪刑名ヲ宣告ス可シ然ルヲ原告官ノ公訴罪名見込外ナリトテ違式ノ罪アリト認ムルモノヲ釋放スルノ意ヲ知ラス夫レ現今日本刑事裁判法ノ慣例ニ依ルニ法官ニ於テ檢事ノ公訴偶々其見込異ニスルアルモ有罪ト認ムル上ハ直チニ宣告ス可キモノナリ假令ハ故殺ノ見込ヲ以テ公訴スルモ法官之カ謀殺罪アリトシテ直チニ放免ノ申渡ヲナスカ現今ノ裁判法ニ於テ甚タ解ス可カラサルナリ夫裁判官へ檢事ノ公訴ヲ受ケ始メテ職務ヲ運轉スルノ性質ナレハ公訴私訴ノ名ハ異ナルモ事實ニ於テハ同一ノ理ニシテ原告請求外ノ裁判ヲナスノ理ナキ

トスルカ是最モ當然ノ論議ナリ然レトモ日本ノ刑法ハ悉ク正條ヲ掲クルニアラス假令ハ例第九十九條ノ如キ情狀ニ依リ刑名ノ異ナルモノニシテ檢事ニ於テハ其罪狀不應爲ト見込ヲ以テ公訴スルニ法官ハ之ヲ違令又ハ違式ノ罪狀ナルト認ムレハ其範圍内ニ於テ各情ニ依リ裁判スルノ自由ヲ與ヘタリ其他明文ナキ他律ニ準擬シテ罰スルノ法律ニ對シ遽ニ理論ヲ實施スルチ得ン況ンヤ現今精密ナル治罪法アルナク多ク原告官ハ警察官ニシテ其務メヲ攝行シ來レハ始終裁判官審問宣告ノ節公庭ニ陪席スル能ハサレハ法官公訴ノ見込外ナリトテ有罪者ヲ放免スル場合ニ於テ即坐公訴狀ヲ更正シテ更ニ公訴スルニ由ナク一度放釋申渡シテ受ケシモノナシテ再ヒ拘留又ハ責付シテ公訴ノ順序ニ就カサル可カラズ是甚タ事實ニ於テ爲ス能ハサルノコナリ依テ該裁判ヲ不法ト認メ上告破毀ヲ求ム

ル所以ナリ

辨明

衛吉カ伐採爲セシ官敷ノ生竹ハ自己カ所有畑ニ日光空氣ノ流通ヲ遮リ年々諸作不熟ニテ難澁ノ餘リ該地拂下ヲ出願シ未タ其許可アラサル以前ニ之ヲ毀伐開墾シタル罪ハ即チ戸婚律毀棄器物稼穡條凡人ノ器物ヲ棄毀シ及ヒ樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス官物ハ一等ヲ加フトアルニ依リ仍ホ其情狀ニ至テハ酌減スヘキ處アルヲ以テ減等シテ聽贖スヘキヲ相當ナリトス然ルニ八代區裁判所ニ於テハ右違式ノ罪アルモ求刑外ナリトシテ之ヲ釋放シタルハ長坂警部意見ノ通り不當ノ裁判ナリトス依テ本件ハ更ニ伐竹ヲ估計シ前辨明ノ如ク相當ノ處斷ヲ爲スヘキモノナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月廿八日熊本裁判所管内八代區裁判所ニ於テ内田衛吉ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ熊本裁判所ニ於テ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付上告官ニ於テハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第五百五十五號

○判文〔竊盜再犯ノ件〕明治十三年七月二日上告
 明治十三年九月十六日判決

兵庫縣攝津國川邊郡伊丹小屋口村二拾三番地
 平民

佐藤政吉

明治十三年六月
 二十三年六月

右政吉カ所爲ニ對シ明治十三年六月廿六日大坂裁判所ニ於テ言渡シ

タル裁判左ノ如シ

其方儀明治十三年六月十二日午前十時頃澤井新次郎居宅へ忍入りタル一件遂吟味處醫師中川某ノ住所ナリト認メ再三案内ヲ乞フト雖モ答辭無キ故這入りタルモノニテ盜心ヲ生シ忍入りタルニハ無之旨陳述スト雖モ應答無シトテ漫ニ他家へ進入スヘキ筋無キノミナラス該家主澤井新次郎ニ於テ同人倅秀太郎並妻兩人留守ヲ爲シ二階ニテ職業ヲナスニヨリ下座敷表戸ヘコロ、ヲ落シ並ニ中簀等モ締置キタルニ座敷或ハ臺所人音致シタルニ付秀太郎二階ヲ下リ見受タル處奥ノ間ニ不知男イミ居ル旨申立仍ホ酩酊ノ趣陳述スト雖モ捕獲巡查ニ於テ相改メタル所醉体ニアラサリシ旨証明アリ其犯蹟判然タルヲ以テ顯跡アル者ヲ以テ論シ不應爲律輕ニ問ヒ答三十申付ル

大坂裁判所兼務檢事橋口兼三ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月二日司法卿ヲ經由シ本院ニ上告狀ノ旨趣左ノ如シ

佐藤政吉

右ハ竊盜再犯未得財ノ見込ヲ以テ本年六月十七日當裁判所へ公訴セシ處同月廿六日別紙宣告書ノ通斷決セリ蓋シ本犯ニ於テ訪尋スル人アリ澤井新次郎宅ヲ其人ナリト誤認シ幸ヒ門口ハ明放チアリ内ニハ人聲スルヲ以テ再三案内ヲ乞フニ應答ナシ而シテ酩酊ニモ有之ヨリ遂ニ座上ニ進入セリト陳辨ス然レ共門口ノ戸締リ致シアリシハ家主新次郎ノ届書ニテ判然タリ而シテ醉体ニアラサリシハ巡查上伸書ニテ亦明カナリ勿論判事ニ於テモ該犯ノ供述ハ皆不實ト認定セリ然ハ則チ賊盜律竊盜條及ヒ再犯加等罪例ニ照シ論決スヘキモノニアラスヤ然ルチ竊盜顯跡アル者ヲ以テ不應爲輕ニ斷了

セシハ裁判法律ニ違フ者ト存候依之一件書類相添此段上告候也
辨明

佐藤政吉カ醫師中川某ノ居宅ト誤認シ澤井新次郎方ニ立入シト陳述スル顛末ハ右新次郎及ヒ捕獲巡查ノ申立アツテ其盜狀ノ著シキ者即賊盜律竊盜條凡竊盜財ヲ得サル者ハ笞四十トアルニ依リ仍ホ再犯ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役五十日ニ處斷スヘキニ原裁判所ノ裁判茲ニ出テスシテ止タ顯跡アル者ヲ以テ論シ不應爲輕キトシ笞三十ニ處斷シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月二十六日大坂裁判所ニ於テ佐藤政吉ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

佐藤政吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ竊盜財ヲ得サル者懲役四十日ノ處再犯ナルニヨリ一等ヲ加ヘ

懲役五十日

第五百五十六號

○判文〔巡查ヲ罵詈セシ件〕明治十三年七月十八日上告
明治十三年九月十六日判決

山口縣長門國厚狹郡際

波村居住士族

三隅善之輔

明治十三年
三十八年

右善之輔カ所爲ニ對シ明治十三年七月九日廣島裁判所山口支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀山口縣警保課ヨリ召喚ヲ受ケ出頭セサルニ付巡查出張ノ上

不參ノ理由並ニ届出サル次第等書面ニ認メ差出ヘキノ達ヲ受ケ一
 旦之レヲ差出スモ文意充分ナラサルニ依リ更ニ書換ヲ命スルニ其
 書換ヲ拒ミ剩ヘ巡查ヲ罵詈シタルヲ以テ其始末赤間關警察署ニ於
 テ推問ヲ受クルニ更ニ巡查ヲ罵詈セシトナシト申供スト雖モ妻「ユ
 リ」ノ書面及ヒ當時出張セシ巡查ノ上申書等ヲ以テ即チ巡查ヲ罵詈
 シタルモノト認定シ改定律例第二百三拾七條ニ比擬シ懲役三十日
 ノ處士族ナルニ付改正閏刑律ニ照シ禁獄三十日申付ル
 善之輔ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月十八日大審
 院ニ上告ノ要點左ノ如シ

自分ノ認メタル不參始末書ハ盡サ、ル處アルヲ以テ書換ヘク旨ヲ
 出張巡查申聞ルニ依リ其文例差圖ヲ請フニ巡吏其義ヲ示サヌ因テ
 自分ハ此書面ニテ聞濟アリタシト云テ山口表ヘ出足シタルナリ決

シテ巡查ヲ罵詈シタル覺ヘナキトノ事

辨明

右ノ要旨ヲ以テ善之輔ハ巡查ヲ罵詈シタルヲ無之旨ヲ申立レ出
 張巡查佐伯虎作カ手續上申書中ニ「是迄召喚ニ應セサリシ理由ト届
 出チ爲サ、リシ譯ヲ明瞭ニ記載可致様申付候處終ンヲ申ナ杯ト
 言張左スレハ舟木分署ヘ拘引可致旨申爲聞候處案外千萬自分ヘ馬
 鹿ヲ申ナ書面ヲ認ムルヲナシ分署ニ更ニ用事ナシ只今ヨリ山口ヘ
 出頭スルト申募リ直ニ立上リ馬鹿ナリト申ナト云ナカラ兩天傘ヲ
 手ニ持該家ヲ已ニ駈出サントスルニ付何レヘ出ルカト尋問候處馬
 鹿ヲ申ナ山口ヘ出頭スルト申ニ付左スレハ山口ヘ拘引スルト追跡
 候處馬鹿ヲ申ナト言ナカラ駈出候云々」トアルノミナラス善之輔妻
 「ユリ」カ差出シタル始末書ヲ閱スルニ左ノ如シ

厚狹郡際波村七拾番地

居住士族

三隅善之輔

右私夫ニ御座候處今般山口警保課ヨリ再應御召喚御坐候處出頭不仕ニ付巡查御出張相成入割御取正相成候テ書面御取附ノ段トモ被仰聞候處御差圖ニ不應故船木分署へ罷出候様御申付相成候得共船木分署へ用事無之山口罷出候段申募刺馬鹿杯ト相唱其末私宅駈出申候依テ此段上申仕候也
右之通相違無御坐候以上

三隅善之輔妻

ユリ拇印

明治十二年九月十二日

船木分署

御中

右妻「ユリ」カ始末書ト巡查ノ上申書等ヲ参照スレハ現場ノ狀況最モ符合シ矧ヤ「ユリ」ハ其妻ニシテ此ノ如ク陳述シタリシヲ視レハ是其實ナルヲ知ルニ足リ即チ巡查ヲ罵詈シタルニ相違ナシトス故ニ廣島裁判所山口支廳ニ於テ改定律例第貳百三拾七條ニ依リ禁獄三十日申付タルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月九日廣島裁判所山口支廳ニ於テ三隅善之輔ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第五百五十七號

○判文(罪人拒捕ノ件)明治十三年八月廿三日上告
明治十三年九月十六日判決

茨城縣下總國東葛飾郡

柏村四十二番地平民海

老原忠吉兄

海老原永吉

明治十三年八月
三十六年

右永吉カ明治十三年八月五日千葉縣松戸警察署ニ於テノ供狀及ヒ明治十三年八月十七日東京裁判所千葉支廳ニ於テナシタル口供左ノ如シ

千葉縣松戸警察署ニ於テノ口供

自分儀明治十一年十一月三十日午後第一時頃東葛飾郡松ヶ崎村寄留萩原久左衛門方ニ於テ同人長男同郡柏村萩原久太郎儀旅人宿開業ニ事寄セ多人數集會密ニ大賭博相催ス旨專ラ風聞有之候ニ付多

分ニ集金モ可有之ト存シ曩ニ同人ニ金壹圓ノ貸金有之候間催促旁久左衛門方ニ相越シ候處近來未曾有之大賭博ニテ近郷回限ノ者共多人數集會飲食致居リ自分ニモ酒肴差出シ候ニ付飲酒喫飯ノ末久太郎ヨリ貸金壹圓受取リ内金貳拾錢ヲ花錢トシテ久太郎ニ差遣シ然ル處同家奥ノ間ニ於テ久太郎ヲ始トシテ同郡柏村福住津彌藏金子新左衛門風澤勝五郎芹澤岩藏同郡名戸谷村藪崎寅吉同郡三ヶ月村戸邊彌太郎同郡小金町吉田慶次郎姓不知寅吉同郡栗野村ノ梅吉同郡花野井村松丸喜四郎同郡増尾村神宮喜兵衛伊藤伊セ松同郡戸張村ノ常吉同郡大室村ノ鶴吉事寺田又市南相馬郡岡發戸村渡邊清六同郡我孫子驛積田彌左衛門同郡箕輪村ノ廣瀬庄平同郡下ヶ戸村洞尾三造同郡高柳村ノ湯淺春吉同郡我孫子驛ノ源内松事關口松太郎等其外住所姓名不知者凡四拾名都合六拾名斗リモ相會シ財物ヲ

賭シ出入時ナク盛ノニ勝負ヲ競ヒ居候ニ付自分モ好ム所ノ賭博故
 其列ニ加ハリ金錢ヲ賭ケ博奕手合罷在候處明治十一年十一月三十
 日午後第二時頃ニモ候哉御上意ノ掛聲ニテ俄然御手配相成一同恐
 愕ノ餘リ戸障子ヲ蹴破リ思々ニ逃去リ自分モ直クニ同家裏手へ逃
 ケ出シ過テ田ノ中へ落テ入漸クニシテ居村裏通りヨリ自宅ニ立歸
 リ土泥ニナリタル衣類ヲ妻ニ洗ハセ抔致シ居候際ニ印旛郡根戸村
 新田牛馬賣買渡世日暮八十郎南相馬郡大井村同渡世坂卷吉兵衛ノ
 兩人相越シ種々雜話中兩人義只今松ヶ崎村久左衛門方へ賭博御手
 配有之候趣通行掛ケニテ承リ候旨相咄シ候ニ付成程御手入有之候
 趣素知ラヌ顔ニテ相答其後兩人共午後第四時頃立歸リ候ニ付自分
 モ續イテ同郡豐四季村海老原「ナミ」方ニ相越シ其夜ハ同家ニ一泊ノ
 末後チ熟考スルニ今ニモ御捕縛相成ルヘクモ難計候ニ付一時モ早

ク逃亡致スヘクト決心翌日則明治十一年十二月一日未明ニ同家チ
 出發印旛郡宗ノ橋ト申處姓不知市左衛門方ニ來リ前ニ金三圓ノ貸
 金有之候ニ付右金ヲ受取り下垣生郡成田山へ參詣シ夫ヨリ福島縣
 下及茨城縣下ノ牛馬賣買渡世ノ者ヲ手寄り潛匿罷在候處明治十三
 年六月廿九日午后第四時頃茨城縣新治郡中貫村山崎長次方ニ於テ
 御捕縛相成同縣土浦警察署谷田部分署へ御拘引ノ上同縣土浦警察
 署ヲ經テ當松戸警察署へ御引渡ニ相成前條御推問ノ末曩ニ松ヶ崎
 村萩原久左衛門方賭博御手配ノ際東葛飾郡流山村當時姓名不知加
 藤瀧藏外數名ト共々棍棒ヲ以テ千葉縣元警保課雇飯田源吉ヲ毆打
 シ當時同人ニ捕縛セラレ候同郡大室村寺田又市ヲ取戻シ剩へ自分
 ハ源吉ノ懷中ヨリ財布ヲ取出シタル旨前書久太郎外數名ヨリ申立
 有之趣ヲ以テ數回御審問ニ有之候得共自分ニ於テハ決シテ源吉ヲ

毆打シ且懷中ヨリ財布ヲ取出シタル覺へ無之候尤當時御手配ノ御役人ヲ一同場錢攫ト心得毆打シタル旨後ニ聞及候事

東京裁判所千葉支廳ニ於テノ口供

自分儀萩原久左衛門宅於テ財物ヲ賭ケ博奕致シタル始末ハ明治十三年八月五日松戸警察署ニ於テ摺印ヲ爲シタル口供ノ通相違無之候へトモ追捕ニ向ハレタル飯田源吉ヲ毆打セシトハ覺無之候

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月十七日東京裁判所千葉支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀萩原久左衛門宅於テ財物ヲ賭ケ博奕致シ當時追捕ニ向フタル舊千葉縣警保課雇飯田源吉ヲ毆打セシトナシト供スレト同夥者萩原久太郎等ノ供狀及ヒ岡田「ノイ」等ノ陳述飯田源吉ノ具狀等ニ因リ萩原久太郎等ト俱々飯田源吉ヲ毆打折傷ニ至ラシメタル者ト認

定ス右科罪人拒捕律改正條款ニ照シ從テ以テ論シ一等ヲ減シ懲役十年申付ル

賭博罪ハ輕ニ依リ論セス

海老原永吉ニ於テ右ノ裁判ニ服セス明治十三年八月廿四日大審院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

東京裁判所千葉支廳ノ判文ニ其方儀萩原久左衛門宅於テ財物ヲ賭ケ博奕致シ當時追捕ニ向フタル舊千葉縣警保課雇飯田源吉ヲ毆打セシトナシト供スレト同夥者萩原久太郎等ノ供狀及ヒ岡田「ノイ」等ノ陳述飯田源吉ノ具狀等ニ因リ萩原久太郎等ト俱々飯田源吉ヲ毆打折傷ニ至ラシメタル者ト認定ス云々トアレト明治十一年十一月三十日午後二時頃萩原久左衛門宅ニ於テ凡二十名程賭博手合中現場ニ捕縛手配相成タルニ驚キ同家南ノ方ニ當ル裏戸口ヨリ逃走狼

狼途中ニ於テ田ノ泥中轉墜汚泥ノ儘歸宅致シタル義ニテ當時捕吏
ニ向ヒ拒捕致シタル覺へ曾テ無之然ルヲ右ノ事實ヲ審糺セラレ
單ニ罪人拒捕條ニ依リ懲役十年ニ處斷セラレタルハ不當ノ裁判ナ
リト思考ス

辨明

被告於テハ右上告ノ如ク拒捕シタル覺へナシト陳レ凡萩原久太郎
ノ供述中「御役人ノ懷中ニ手ヲ突込財布ヲ奪去リタルハ岡發戸村ノ
土渡邊清六柏村海老原榮吉兩人ノ所業ト認メ候何故ナレハ清六ハ
又榮吉ハ當時自ラ財布ヲ取出シタル旨ニテ財布様ノモノヲ所持シ
居タルヲ見受候云々」トアルヲ以テ觀レハ被告カ捕吏ノ來ルヲ見テ
直チニ逃走シ其後ノ事ヲ知ラスト陳スルノ不實ナルヲ徴スヘク又
福住津彌藏ノ供述中「野郎締メテ仕舞ト大音ニテ呼ハル聲ト諸共ニ

流山村ノ加藤瀧藏ハ第一番ニ五尺位ノ杉丸太ヲ振廻シ第二三番ニ
ハ柏村ノ馬喰渡世海老原榮吉芹澤岩藏ニテ略一同御役人ヲ捕卷キ
四方八方ヨリ追々打テ掛リ云々」トアリ此他大貫「ヨシ」岡田「ノイ」兩
名モ捕吏ヲ毆チタル數名中ニ被告モ在リシ旨申立ル上ハ被告ハ萩
原久太郎等ト共ニ捕吏飯田源吉ヲ毆チタルノ証明白ナルヲ以テ東
京原裁判所千葉支廳ニ於テ罪人拒捕律改正條款ニ照シ從テ以テ論
シ一等ヲ減シ懲役十年申付タルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年八月十七日東京裁判所千葉支廳ニ於
テ海老原永吉ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス仍テ
上告狀却下スルモノナリ

○判文〔竊盜ノ件〕明治十三年五月十日 上告
明治十三年九月十七日 判決

大阪府下西成郡難波村

三番地藤本與兵衛同居

平民

戸 奈 岩 吉

明治十三年
三十二年

右岩吉カ明治十三年四月三十日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口
供及ヒ明治十三年四月二十三日大坂府長堀橋筋警察署ニ於テ吟味ヲ
受ケタル口供左ノ如シ

大坂裁判所ニ於テノ口供

自分犯罪ノ趣キ警察署於テ口供ニ捺印セシ通相違無之候且賍金壹
圓三拾四錢ニ相成候事御吟味ニテ承知仕候事

大阪府長堀橋筋警察署ニ於テノ口供

自分義鬻ニシテ稼方不相成貧窮ノ余リ不圖盜心ヲ生シ明治十三年
四月廿三日午前九時頃府下西成郡難波村市場ニ於テ物主ノ隙ヲ窺
ヒ其節姓名不存西區裏新町上田新兵衛伴仙太郎所持ナル鶏卵凡百
拾箇籠入ノ儘盜取其場逃亡致シ右鶏卵ノ内四拾箇ハ難波村樽本丑
松へ盜情ヲ申明サス代金四拾四錢ニ賣渡シ殘七拾箇ハ同村ニ於テ
所名不存者へ代金七拾錢ニ賣捌キ右代金ノ内拾八錢ニテ下駄壹足
拾五錢ニテ揮壹筋買求メ七拾貳錢ハ同村哲源寺邊通行ノ際落失致
シ九錢ハ當今所持致居候處明治十三年四月廿三日午前十一時比同
村ニ於テ被召捕今更恐入候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月五日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申
渡シタリ

其方儀明治十三年四月廿三日難波村市場ニ於テ大阪府下西區裏新町上田仙太郎カ鷄卵ヲ竊取スル賍金壹圓三拾四錢ノ科竊盜律ニ依リ杖六十申付ル

大阪裁判所兼務檢事橋口兼三ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年五月十日大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ差出シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

戸奈岩吉竊盜罪有之本年四月二十八日大坂裁判所ニ公訴セシ處五月五日竊盜律ニ依リ杖六十ニ斷決セリ該犯ハ聾ナルヲ以テ老小癡疾収贖例圖ニ照シ収贖ス可キ者ナレハ裁判法律ニ違フ者ト見込候ニ付一件書類相添上告候也

辨明

戸奈岩吉カ上田仙太郎所有ノ鷄卵ヲ竊取セシ罪ハ本犯兩耳聾ニシ

テ殘疾者ナルモ之ヲ一手一足ヲ折リ或ハ聾啞癡呆ノ類ト等シク癡疾者ヲ以テ論シ収贖スヘキモノニアラストス故ニ大坂裁判所ニ於テ賊盜律竊盜條ニ依リ賍金壹圓以上ノ科杖六十實斷シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月五日大坂裁判所ニ於テ戸奈岩吉ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第五百五十九號

○判文(不應爲ノ件)明治十三年五月十五日上告
明治十三年九月十七日判決

宮城縣陸前國宮城郡七

北田村三拾八番地平民

郵便取扱人

峯岸吉三郎

明治十三年五月
五十五年一月

右吉三郎カ明治十三年四月廿八日仙臺裁判所檢事局へ差出シタル始末書左ノ如シ

自分儀明治十三年三月六日仙臺警察本署ヨリ鶴谷村戸長役場へ郵便御狀御差立ノ處其節幸便無之態仕立ニ付同村峯岸友治ト申者金五錢ニテ雇右金員毫モ私用不仕常郵便稅貳錢ノ不足正ニ請取五錢ト申賃金ハ鶴谷村役場ヨリ脚夫ノ者直ニ請取候實ハ警察御用狀へ計取泥一時モ差留置キ如何ト勘辨仕且ツ幸便無之ニ付態仕立ヲ以テ差立五錢ノ賃金右脚夫ノ者爲申受候段御糺ヲ蒙リ恐縮ノ至奉存候

右ノ始末書ニ依リ明治十三年五月十三日仙臺裁判所ニ於テ左ノ裁判

ヲ申渡シタリ

其方儀宮城縣警察本署ヨリ鶴ケ谷村戸長役場へ向ケ送達スル平常郵便ノ用狀ヲ脚夫ヲシテ別配達セシムル一件ニ付不應爲ノ罪アリトシ檢事ヨリ求判相成遂審理處刑法ニ觸ル、廉無之ヲ以テ放免仙臺裁判所兼務檢事中川忠純ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ明治十三年五月十五日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

宮城縣平民陸前國宮城郡七北田村郵便取扱人峯岸吉三郎ナル者本縣警察署ノ告發ニヨリ即チ不應爲ノ罪アリトシ仙臺裁判所ニ公判ヲ求メタリ然ルニ該裁判所ニ於テハ本年本月十三日別紙ノ如ク意見ヲ付シ直ニ放免セリ抑吉三郎ニ於テ郵便線路ニ非サル在村ニ信書ヲ送達シ持込稅不足ナルニ依リ已ニ二倍ノ増稅ヲ請求シ更ニ差

出シ人ノ要セサルニ別仕立ノ信書トシ脚夫ノ賃錢ヲ受取タルハ即チ一箇ノ信書ニ二重ノ税ヲ付料スルナリ夫レ如此郵便官吏ノ私擅ニ信書ヲ扱フハ公益ヲ害スル私罪タル言ヲ竣スシテ明瞭ナリ豈ニ是ヲ以テ不問ニ置クノ理アレヤ若シ果シテ至急ヲ要スルトノ注意ヨリ別仕立シ殊更ニ送達スルトセハ何ソ其成規ニ違返シテ貳錢ノ増税ヲ受取タルヤ是レ其罪狀ヲ湮滅セントノ詐辨タル疑ヲ容レサルナリ依テ該裁判所ニ於テ吉三郎ノ刑律ニ觸ル、所爲ニアラストシ放免ニ及ヒタルハ不當ノ裁判ト思料シ破毀ヲ要スル爲メ上告候也

辨明

被告峯岸吉三郎カ仙臺警察本署ノ平常郵便書狀ヲ明治十三年郵便規則及ヒ罰則第二條第十八節ニ第十一節第十五節ノ手續ヲ爲サ、

ルモノハ別配達別仕立或ハ至急大至急等ト書載スルモ平常郵便ノ取扱ヲ爲スヘキ事トアル規則ニ依ラス別配達ニセシハ其始末書ニ「警察御用狀」計取泥一時モ差留メ置キ如何ト存中略幸便無之ニ付態仕立ヲ以テ差立云々」トアルヲ以テ觀レハ畢竟職務上ノ失錯ニシテ有心故造ノ私罪ト云フヲ得サルモノトス故ニ仙臺裁判所於テ刑法ニ觸ル廉無之ヲ以テ放免ト申渡シタルハ適當ノ處分ニシテ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月十三日仙臺裁判所ニ於テ峯岸吉三郎へ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第五百六十號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十三年六月八日上告
明治十三年九月十七日判決

岡山縣御野郡二日市村

在籍當時上道郡竹原村

居住平民

川崎彌三郎

明治十三年四月
廿八年八月

右彌三郎カ明治十三年四月十七日外一度岡山縣警察署於テ爲シタル
口供左ノ如シ

明治十二年十二月廿五日九龜區裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ杖
八十ニ處セラル

一自分儀昨明治十二年十二月廿五日九龜區裁判所ニ於テ御所刑ヲ
相受ケタル節前ニ惡事相働キ居リ候ヲ包藏致居候處今度御召捕ニ
相成候ニ付左ニ申上候

一明治十二年九月廿五日午后七時頃岡山區上ノ町牛肉商酒井九三
郎店先ニ於テ巡查御役人ニ見認ラレ候處岡山區東中島町藤田重三
郎方ニテ衣類盜取リタル旨御尋ニ付有体ニ同所ニ於テ盜取リタル
旨申上候處御召捕ヘニナラントスル際透ヲ窺上ノ町堀端ヲ一目散
ニ逃走候事

一明治十二年七月十二日ヨリ兼テ見知リニ有之候岡山區東中島町
平民藤田重三郎方ヘ參リ同月十四日迄數日ノ間同家ヘ世話ニ相成
居リ候處同十三日午后三時頃家内ノ透ヲ窺ヒ奥ノ間ノ押込ミノ簞
笥ノ下ノ引出ニ有之候紺カスリ女着單物壹枚紺五郎打合セ女帶壹
筋奉書ツムキ茶色半纏女着壹枚縮緬給綿伴女着壹枚都合四枚盜取
リ同月日ハ不覺讚岐國金比羅宮ヘ參詣ノ同所相生町中程ノ姓名不
存古手商ノ者ヘ右四品ヲ持參金貳圓九拾錢ニ盜情ヲ不明賣拂ヒ右

金員ハ不殘飲食ニ費ヒ果シ申候事

一同年八月日不覺岡山區紙屋町字新町下西「ヒサ」トハ兼テ見知りノ者ニ有之候折柄自分内々妻ニ致居リ候佐藤「タカ」ヲ連レテ同家へ參リ右「タカ」ヲ相預ケ置キ自分モ始終出入等致シ居リ候處右「タカ」ノ帶無之ニ付他へ出ルコトモ出來難クニ付帶壹筋借リ吳レ候様申ニ依リ自分ヨリ同家ノ娘竹ナルモノ帶壹筋貸セ吳レ度旨右「ヒサ」へ掛合候處借セ吳レ候ニ付右「タカ」へ借セ遣セ置キ候處其右「タカ」ヨリ相返スヘク旨申ニ依リ此ノ品ハ最早相當代價ニテ買取リニ致候間返スニ及ハス旨「タカ」へ申聞ケ置キ右品ヲ岡山區西大寺町古着商井上金七へ右「タカ」ト同道ニテ參リ右女帶壹筋ヲ金壹圓拾錢ニ賣拂ヒ夫ニ又壹圓拾錢ヲ足シ都合貳圓貳拾錢ニテシユスノマル帶壹筋買求メ右「タカ」へ遣シ置キ候尤モ其節明細帳へ記名調印ノ儀申聞ケ候へ共實

印所持不致候ニ付退テ記名調印致シ候ト申シ其儘ニ相成居候其後思敷クモ無之候ヨリ又候右女帶ヲ盜情ヲ明サス讚岐國金比羅宮へ參詣ノ節同所ニ於テ住所姓名不存古着商ノ者へ賣拂ヒ右金員ハ不殘飲食ニ費用致候事

一同年八月二日御野郡上出石村字奉還町宿屋業河内「タマ」方へ右佐藤「タカ」ヲ連レテ凡十三日間程宿泊致居リ候處好々目途モ無之候折柄同十四日黄昏ノ頃岡山區西大寺町邊マテ買物ニ參ルト申シ偽リ同家ヲ立出テ候尤モ右宿料十三日分都合金貳圓九拾貳錢ニ相成候處ニ金壹圓ヲ差入レ置キ殘壹圓九拾貳錢ハ相拂申ヘク筈ニ有之候得共未タ其義モ不致居リ候併シ右「タカ」へハ竹原村ヨリ金相廻リ候次第相拂ヒ申候間心配不致候様申聞ケ相偽リ置キ候事

一同年九月日不覺午前第十一時頃岡山區天瀬字細堀雀部某方へ借

宅人小野富方へ一兩度モ参リ候トモ有之候折柄同家へ立寄リ右富ト種々雜談ノ末同人ノ透ヲ窺ヒ其場ニ有之候紺博多女帶壹筋紺カスリ單物女着壹枚盜取り岡山區船頭町中程守屋ト申者方へ借宅致居ルヲ姓不存藤造ト申者ニ西大寺町ノ横町ニ於テ盜情ヲ明サス紺博多女帶壹筋ハ金貳圓紺カスリ單物女着壹枚ハ三拾錢ニ賣拂ヒ右金員ハ不殘飲食ニ費ヒ果シ申候事

一同年九月十六日夜兼テ懇意ニ有之候岡山區上ノ町平民友野兼造方へ右佐藤「タカ」ヲ連シテ参リ同人方へ此邊ニテ借宅致候ニ付暫ラク逗留爲致吳度旨依頼ニ及ヒ同月廿六日迄十日間逗留致シ同日東中山下へ借宅致シ候ニ付掃除ニ参ルト申偽リ同家ヲ右「タカ」ト同道ニテ立出ル際同家ノ中間ノ掛ケ竿ニ有之候男博多帶壹筋右「タカ」へ知ラセス盜取り逃去リ其后讚岐國金比羅宮へ參詣ノ節同所アワイ

町ノ次ノ町ニテ姓名不存古手商ノ者へ右帶ヲ金五拾錢ニ盜情ヲ明サス賣拂右金員ハ不殘飲食ニ費ヒ果シ申候事

一同年五月日ハ不覺廣島縣廣島細工町中程姓名不詳ノ宿屋ニテ十三日間逗留中ノ宿料金三圓有之候ヲ其儘ニ致シ置キ逃走リ申候事」
一同年四月日不覺大坂府下へ参リ候處思敷儲モ無之候處ヨリ兼テ岡山區二日市町備中屋又吉娘「キン」ト申シテ三十歳斗ニ相成候者大坂府下安堂寺橋ノ次ノ橋ノ丸平ト記載有之宿屋ニテ奉公致候趣キ承リ候ニ付同人ヲ尋子テ参リ十日余リモ宿泊致シ右宿料貳圓不拂ニシテ逃走致候事

一前書東中島町平民藤田重三郎方ニテ紺カスリ女着單物壹枚外三品盜ニ取り候節結城編女着拾壹枚岸壁編女半纏壹枚ナリメン帶ハ壹筋都合三品盜取り候哉ノ旨御取調ヲ更ニ蒙リ候ニ付能ク相考候

得共盜取リタル覺へ無之候得共乍然取リ出シ候節途中ニテモ遺失致候モ相知レ不申候事

一前書岡山區船頭町中程守屋ト申者方へ借宅スル姓不存藤造へ西大寺町ノ横町ニテ紺博多女帶壹筋外壹品賣拂候節明細帳簿へ記名調印致シ吳候様申聞候得共途中ノ事故印形持參不致ニ付後日持參ノ節調印致へク旨申聞ケ置キ立別レ申候事

一同年八月日不覺岡山區紙屋町字新町下西「ヒサ」方ニテ女帶壹筋借受ケタル帶ヲ右西大寺町古着商井上金七方ニテ買替へ候女帶壹筋ハ讚岐國金比羅宮へ參詣ノ節同所相生町ニテ姓名不存者盜情ヲ明サス賣拂ヒタル旨申上候處ヨク相考候得者全ク考へ替ニテ右女帶ハ本年二月日不覺備前國上道郡西大寺村へ讚岐國ヨリ歸途同所ニ於テ金錢費ヒ果シ候ヨリ同所字坂ノ下ニ於姓名不存古手商ノ者へ

金壹圓三拾錢ニ賣拂ヒ申候右金員不殘飲食ニ費用致候事

明治十三年四月廿二日ノ口供

一自分儀惡事ノ始末ハ右弓ノ町分署ニ於テ申上ケ置ク通ニ有之今復々更ニ申上ル儀ハ無之候

一丸龜區裁判所ニ於テ刑名御申渡後御下渡相成候御宣告書ハ其後何レヘカ紛失致シ候

一右岡山區中島町藤田重三郎方ニテ盜取ル品ヲ賣拂ヒタル古手屋ハ讚岐國金刀比羅村アハセ町中程東側ニ有之候

一當岡山區上ノ町友野兼造方ニテ盜取ル帶ヲ賣拂フタル家ハ前書アハセ町ノ南ニ當ル次町ニテ中程ノ東側古着商ニ有之候

一廣島ニテ宿料ヲ拂ハスシテ逃走シタル家ノ屋號ハ失念致シ且町名モ確ト記臆ハ致シ居ラサレモ儘カ細工町ト承リ居其家ハ南側ニ

有之候

一大坂ニテ前同様ノ所業ヲナシタル家ハ〇ノ中ニ平ノ字ノ入リタル看板ノアル旅籠屋ニ有之トモ町名ヲ不存其所ハ安堂寺橋トカ申ス橋ヨリ西ニ方リ六七町程距リ居ル様覺ヘ尤安堂寺橋ノ通筋ニハ無之多分次ノ通り筋ト被考候

一自分ハ未タ家主ニハ無之親掛リノ身分ニテ父母ト三人家内ニ有之父ハ六十二歳母ハ五十四歳妻子ハ無之候

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月三十一日神戸裁判所岡山支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十二年七月十三日藤田重三郎方ヲ始メ外ニケ所ニ於テ衣類盜取或ハ下西「ヒサ」方ニ於テハ女帯一筋ヲ借受ケ後之レヲ賣却スルノミナラス河内「クマ」方ノ止宿料ヲ拂ハス逃走スル賊金併セテ

拾八圓五拾貳錢右科ノ内一ノ重キ賊盜律竊盜條ニ依リ杖七十ノ處再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ杖八十申付ル

岡山縣九等警部岡田磐ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月八日司法卿ヲ經由シテ本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

被告川崎彌三郎ハ明治十二年十二月廿七日丸龜區裁判所ニ於テ受刑ノ際曾テ犯シタル備前國岡山區東中島町藤田重三郎方外數ヶ所ニ於テノ竊盜及ヒ止宿料ヲ拂ハス逃走シ或ハ假借シタル衣類ヲ賣却スル等ノ罪ヲ包藏シ眞准盜罪併セ三拾七圓九拾九錢ノ科ニ依リ處斷ヲ受ケタルモノナルヲ以テ改定律例第七十三條ニ照シ其後發ノ眞准盜罪拾八圓餘ヲ前罪三拾七圓併セ五拾圓以上則懲役一年ヨリ已ニ受斷ヲ經ル杖九十ヲ扣除シ剩罪二百七十五日ヲ科スヘキニ該律例ニ依ラスシテ惟賊盜律竊盜條ニ照シ處斷スルノミナラス再

犯ニ係ルトナシ一等ヲ加ヘ杖八十ト斷決シタルハ失當誤斷モ豈亦太甚カラスヤ故ニ一件書類相添上告仕候也

辨明

本犯ハ改定律例第七十三條ニ凡二次盜ヲ爲シ一次先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ一次後ニ發シ云々俱ニ後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ云々併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科ストアルニ依リテ處斷スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ノ裁判茲ニ出テス先發ヲ以テ初犯トナシ後發ヲ以テ其再犯ニ係レルモノト科斷セシハ不當ノ裁判ナリトス

判決

前條ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月十三日神戸裁判所岡山支廳ノ裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

川崎彌三郎

曩キニ丸龜區裁判所ニ於テ眞準竊盜贓三拾七圓九拾九錢ノ科杖九十受斷ヲ經不盡ノ眞準竊盜贓拾八圓五拾貳錢後發ニ係ルヲ以テ改定律例第七十三條ニ依リ前後ヲ併贓シ五拾圓以上ノ罪即懲役一年ノ處已ニ受斷ヲ經ル杖九十ヲ扣除シ剩罪

懲役二百七十五日

第五百六十一號

○判文〔竊盜自首ノ件〕明治十二年七月十二日上告
明治十三年九月十八日判決

山口縣周防國佐波郡三

田尻町平民千代松長男

荒瀬壽吉

右壽吉カ明治十二年七月廣島裁判所山口支廳ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

明治十一年三月三十日廣島裁判所山口支廳ニ於テ竊盜ノ科ニ依
リ懲役七十日ニ處セラレ
自分儀犯罪ノ次第明治十二年六月七日山口警察署ニ於テ申立候通
相違無之候以上

山口警察署ニ於テ明治十二年六月七日ニ爲シタル口供
自分儀曩ニ竊盜ノ科ニ依リ御處刑ヲ受タル身分尙改心セス明治十
二年一月廿三日夜池田市藏ノ發意ニ同シ周防國佐波郡三田尻町渡
邊岱三郎方へ市藏ト俱ニ忍入衣類盜取員左ニ
一綾大摸様入女物綿入一枚
一紫縮緬淺黃縮緬繼交女物綿入一枚
一緋縮緬女物綿入一枚
一緞子女帶一筋

- 一緞子繼合女帶一筋
- 一岸縞女物拾一枚
- 一カハ色縞子女帶二筋
- 一緞子女帶一筋
- 一上田立縞女物拾一枚
- 一絹立横縞女物綿入一枚
- 一淺黃紋縮緬女物綿入一枚
- 一紬形女物半纏一枚
- 一スキヤ縞女物拾半纏一枚
- 一花色縮緬女物綿入一枚
- 一黒唐縞子女帶一筋
- 一糸錦女帶一筋

- 一 マカエ 緞子女帶一筋
- 一 黒紬男物 袷羽織一枚
- 一 白無垢女物 綿入一枚
- 一 白無垢小兒 綿入一枚
- 一 白無垢男物 袷一枚
- 一 博多色揚女帶一筋
- 一 上田綿色揚女物 綿入半纏一枚
- 一 絹立横綿色揚女物 半纏一枚
- 一 軍内絳女物 綿入一枚
- 一 形縮緬女物 綿入一枚
- 一 センサイ 縮緬女物 綿入一枚
- 一 ノシメ 單衣一枚

- 一 岸絳女帶一筋
- 一 木綿立綿男物 袷一枚
- 一 黒紬男物 袷一枚
- 一 木綿綿男物 袷一枚
- 一 絹木綿繼交女物 綿入三枚
- 一 紺絹女物 綿入半纏一枚
- 一 結城綿女物 袷一枚
- 一 黒紬女物 綿入羽織一枚
- 一 右ノ内
- 一 緞子女帶一筋

是ハ實父千代松ノ使ト詐稱シ周防國佐波郡三田尻町五十君作
左衛門方へ入質金壹圓拾錢借受内金五十五錢池田市藏へ相渡

候事

- 一岸緋女帶一筋
- 一絹立横縞色揚女物綿入半纏一枚
- 一スキヤ編女物袷半纏一枚
- 一絹紺淺黄立縞女物袷一枚
- 一綾大摸様入女物綿入一枚
- 一絹木綿繼交女物綿入一枚
- 一絹縮緬女物綿入一枚
- 一博多色揚女帶一筋

是ハ實父千代松ノ使ト詐稱シ周防國佐波郡三田尻町五十君作左衛門方へ追々ニ入質金高五圓六拾錢借受内金貳圓八拾錢池田市藏へ相渡候然ル處右質札ノ内一枚明治十二年二月頃實父

千代松見認品物ノ出所ヲ相尋候ニ付實母ニ借受タルト詐リ置候處爾後父千代松ヨリ實母ニ前顯尋タルニ貸タル覺無之ト申ニ付テハ惡業ヲ働タルニ可有之ト詰問セラレ候へハ盜情ヲ明サス曖昧ニ答置其後右八品ハ朋友ヨリ頼マレ入質致置タル處此度過金借受ノ義朋友ヨリ頼マレタルト詐リ實父千代松へ質札不殘相渡シ元利金五圓九拾錢六厘ニテ五十君作左衛門方ヨリ受戻シ周防國佐波郡三田尻町高木嘉兵衛方へ入質金拾圓貳錢借受貰ヒ過金四圓拾壹錢四厘實父ヨリ受取候處今般父千代松自分ヲ山口警察署へ連出候節右八品并池田市藏ヨリ高木嘉兵衛方へ入質セシ緞子女帶一筋并池田市藏最初周防國佐波郡三田尻村伊藤榮十郎方へ入質シタル絹立横縞女物綿入一枚此借金壹圓四拾錢ノ分質札市藏ヨリ自分受取居候ニ付實父千代

松ニ頼ニ元利壹圓四拾八錢四厘ニテ受戻シ高木嘉兵衛方へ入
 質金貳圓五拾錢借受貰ヒ過金壹圓壹錢六厘實父ヨリ受取リ候
 分共以上衣類十品受戻シ右ノ内花色縮緬女物綿入一枚ハ父千
 代松ヨリ五十君作左衛門方へ入質金壹圓五拾錢借受出山ノ旅
 費トナシ絹立横縞女物綿入一枚ハ實父千代松自宅へ殘シ置殘
 八品丈ク書面相添實父千代松ヨリ山口警察署へ差出候事
 一紫縮緬淺黃縮緬繼交女物綿入一枚
 一縮緬形女物綿入一枚
 一紬形女物綿入半纏一枚
 一絹ト木綿ノ繼交女物綿入二枚
 一白無垢袷一枚
 一軍内緋女物綿入一枚

一淺黃紋縮緬女物綿入一枚
 一紺絹女物綿入半纏一枚
 一上田縞色揚女物綿入半纏一枚
 是ハ實母ノ所持品ト詐稱シ周防國佐波郡福聚町馬場忠平へ入
 質相頼金七圓三拾錢借受内金貳圓拾錢忠平へ貸渡候事
 一衣類十九品
 是ハ池田市藏入質取引借金ノ内四圓六拾七錢五厘差出候ニ付
 受取候事

明治十二年三月七日自分發意ニテ池田市藏ト俱ニ周防國佐波郡宮市
 町米原光藏方へ忍入盜取物品左ニ

- 一シラカ糸四十括リ
- 一羽織紐二百六掛

一斤量一ツ
一首掛紐六ツ

是ハ池田市藏ニ悉皆相渡置候處市藏ヨリ入質又ハ賣却等致候由
ニテ金四圓二拾貳錢五厘ヲ追々ニ持來候ニ付受取候事

明治十二年四月四日自分發意ニテ若松屋勘藏池田市藏ト俱ニ周防國

佐波郡三田尻村村瀧鶴松方へ忍入盜取物品左ニ

一絹木綿取交セ衣類三十九

一雜品五個

右ノ内

一衣類三枚

是ハ若松屋勘藏着用致候事

一煙管一本

是ハ自分持歸候事

一衣類三十六

一雜品四個

是ハ盜取ル儘周防國佐波郡三田尻村耕地ノ中ニ有之トシヤク

藁ヲ積重子ノ中ニ隱シ置品柄等ハ詳細ニ覺不申若松屋勘藏入
タルモノ

質先ヲ聞繕候筈ニ取極勘藏ト相別レ候處爾後事主ニ於テ嚴重

搜索致候ニ付テハ發覺セシメテ恐レ池田市藏ト申合セ盜品事

主ノ手ニ入候ハ、嚴重搜索モ致間敷ト思量シ盜品ノ内自分持

歸リタル煙管へ盜品有所ノ書付ヲ添事主ノ居宅前へ隱ニ持行

置候處事主ニ於テ其場所搜シタルニ物品少モ無之由仄ニ承リ

候ニ付テハ若松屋勘藏悉皆持去リタルニ可有之ト相考居候處

今般勘藏被召捕御取糺相成候處隱シ置盜品ノ內衣類十七枚勘

藏持去其余ハ周防國玖珂郡中津村出生吉本辰藏ト申者持去リ
タルニ相違有之間敷段申立候趣被仰聞承知仕候事

右贓物ニ關シ受取タル金員ハ不殘飲食ニ費用候事

前顯ノ如ク盜業相働候處明治十二年四月十四日實父千代松ヨリ池
田市藏竊盜不審ニ付三田尻分署ヨリ御搜索相成其方モ黨類ノ由ニ
相聞候處相違有之間敷池田市藏被召捕候上ハ遁ル、道理無之ニ付
其方ハ山口警察署へ連出可申付テハ高木嘉兵衛方へ入質セシ贓物
ハ受戻シ其方ヨリ贓物有所ヲ聞タル都合ニ申立山口警察署へ可差
出ト申ニ付任其意ニ置候處明治十二年四月十八日池田市藏被召捕
候由傳聞候ニ付明治十二年四月二十日實父千代松ニ隨ヒ山口警察
署へ罷出前顯盜業ノ内渡邊岱三郎方丈ケノ盜業申立其余ハ包藏可
致積リノ處退々御取糺相成包ニ由ナク有体申上候次第ニ有之候事

右ノ口供ニ依リ明治十二年七月四日廣島裁判所山口支廳ニ於テ左ノ
裁判ヲ申渡シタリ

其方義曩ニ竊盜ノ科ニ依リ處刑受タル身分尙心底ヲ改メス池田市
藏ノ發意ニ同シ或ハ自己ノ發意ニ若松屋勘藏等ヲ同意セシメ渡邊
岱三郎方外ニケ所ニ忍ヒ入り衣類雜品盜取ル贓金百三拾五圓五拾
八錢黨類池田市藏等ノ捕ニ就クヲ知リ從犯贓金八拾圓已上ノ罪ノ
ミチ自首シ首犯二次ヲ包藏スルニ付犯罪自首律及例第五十九條ニ
照シ一等ヲ減シ贓金七拾圓已上ト假定シテ不盡ノ贓金五拾圓以上
ト併セ尙贓金百廿圓已上ノ科竊盜律ニ依リ懲役十年首從ノ贓併發
スル者ニ付例第七十二條ニ照シ一等ヲ減シ同七年ノ處再犯ナルヲ
以テ一等ヲ加へ懲役十年申付ル

山口縣六等警部能一述利ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二

年七月十二日附大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

荒瀬壽吉竊盜ノ所業有之同人父荒瀬千代松ノ告言ニ依リ犯罪自首律及ヒ例第五十九條并ニ例第六十九條ヲ參照シ廣島裁判所山口支廳へ彈告セリ抑該犯ノ告言タル竊盜田中市藏ノ就捕ヲ聞キ父千代松壽吉ノ疑フ適近隣共犯ノ説アルヲ聞キ一日詰問其實ヲ得措ク能ハス之ヲ官ニ告言スルニ出テ、事機緊急止ヲ得サルノ自首ト逕庭アルヲ以テ犯罪自首律及ヒ例第五十九條ノ前項并ニ例第六十九條ノ前項ニ照シ知人欲告自首トシ減二等ニ從フヘキナリ然ルヲ廣島裁判所山口支廳ニ於テ之ヲ例第五十九條ノ後項ニ擬シ聞捕自首ヲ以テ論シ一等ヲ減シ又從贓八拾圓ヲ七拾圓ト假定シテ併贓セシハ不當ノ裁判ニ付一件書類相添致上告候也

大審院ニ於テ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

荒瀬壽吉カ竊盜再犯罪三次ヲ犯シ其共犯田中市藏ノ捕縛セラレ、ニ當ツテ壽吉ニ於テモ之レカ共犯タリトノ説近隣ニ起リ因テ父千代松カ詰問ノ上遂ニ其共犯タル實ヲ得之レヲ措ク能ハサル所ヨリ山口警察署へ召連レ其一次從犯ノミチ自首致サシメシ顛末ハ事未タ發覺セスシテ自ラ出首スル者ナルヲ以テ名例律犯罪自首條第一項ニ依ルヘキモノトス如何トナレハ其共犯市藏カ既ニ捕ニ就キシ上ハ壽吉ノ罪モ發覺スヘキ等ノ巷説アルノミチナラス必ス其共犯者ヨリ吐露セン事ヲ推則シ自首セシモノニシテ其名ヲ措テ官ニ告ケ事已ニ發セシト欲スルヲ知テ出首シタルニ非サレハ例第六十九條ニ依可カラサレハナリ左スレハ其徵スヘキノ贓ヲ除キ其徵ス可

カラサルノ賍金ト壽吉カ首犯二次ヲ包藏スル不盡ノ賍金ト併セ改
定律例第七十二條ニ照シ減等スヘキハ減等シ尙ホ再犯ニ係ルヲ以
テ加等シ且自首シテ賍徴ス可カラサルヲ以テ又減等シテ處斷スル
ヲ相當ナリトス然ルニ原裁判所ノ裁判玆ニ出ス犯罪自首律及例第
五拾九條ニ照シ一等ヲ減シ賍金七拾圓以上ト假定シテ不盡ノ賍金
五拾圓以上ト併セ尙賍金百貳拾圓以上ノ科竊盜律ニ依リ懲役十年
首從ノ賍併發スル者ニ付例第七十二條ニ照シ一等ヲ減シ同七年ノ
處再犯ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役十年ト處斷シタルハ不法ノ裁判
ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ明治十二年七月四日廣島裁判所山口支廳ニ於テ
荒瀬壽吉ヘ言渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ松山裁判所ニ於テ審判スヘ
キ旨ヲ達シタルニ付山口縣六等警部能一述利ニ於テハ相當ノ處分ヲ

爲スヘシ

第五百六十二號

○判文〔不應爲ノ件〕明治十三年七月十八日上告
明治十三年九月十八日判決

千葉縣上總國武射郡大

里村平民

大竹 勇治

明治十三年七月
二十三年四ヶ月

明治十三年七月十五日東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所ニ
於テ右勇治ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀本衙ノ召喚狀ヲ相渡サント秋葉辨藏方ヘ罷越タル節ハ在宿
ナリシ旨申立ルト雖モ第一戶長ノ上申第二該時辨藏カ止宿セシ旅
人宿大竹半兵衛外一人ノ申立ニ因リ不在ナリシト明白ナリ故ニ本

衙へ差出セシ召喚狀日付更換願書ハ事實相違ノモノナリトス依テ
右科不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日申付ル

勇治ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月十八日大審院
ニ上告スル要領左ノ如シ

自分於テ秋葉辨藏方へ東京裁判所千葉支廳管内八日市場區裁判所
ノ召喚狀持參ノ節ハ同人在宅ニ付相渡スト雖モ貸金返償延期ノ儀
申立右召喚狀受取不申依テ辨藏へ説諭ノ儀戸長役場へ申立タル譯
ニシテ前書ノ如ク當時同人ハ在宅ナリ然ルヲ第一戸長上申第二大
竹半兵衛外一名ノ申立ニ依リ辨藏ハ不在ナリトシ雜犯律不應爲ノ
輕キニ問ヒ懲役三十日ニ處分セラレタルハ不法ナリトノコ

辨明

被告ニ於テ召喚狀ナシテ秋葉辨藏方へ持參ノ節ハ辨藏ニハ在宅シ

ナカラ召喚狀ヲ受取サルトノ申立ハ相立サル申立ナリトス何トナ
レハ秋葉辨藏カ口供ヲ閱スルニ其要領ニ自分ニハ本年一月廿八日
午前十時頃ヨリ下總國下埴生郡俗ニ三里塚ト申村名眩ト不知大竹
半兵衛方へ病氣養生ノ爲メ罷越同廿八日ノ夜ヨリ同三十日迄滞在
云々トアリ又大竹半兵衛ノ始末書ニ於テモ本年一月二十八日ヨリ
同三十日迄三日ノ間私宅へ中秋葉辨藏ナルモノ止宿罷在候儀ニ相
違無之中翌二十九日ハ埴生郡松崎村湯淺與七及ヒ前書辨藏父吉左
衛門儀武射郡大里村小島「ユウ」同道ニテ參リ宿泊致シ云々トアリ又
湯淺與七カ始末書ヲ觀ルニ本年一月廿八日發足芝山村仁王尊へ參
詣ノ歸途中大竹半兵衛方へ一泊仕候處武射郡岩山村秋葉辨藏ハ兼
テ見知リノモノニ候處同人父俱々該家ニ止宿罷在中翌二十九日辨
藏ト久シ振リ面話旁飲酒ヲ催シ中翌三十日午後四時頃ト覺へ私ニ

ハ同所出立云々トアツテ各申供スル所一トシテ符合セサルハナシ
 是ニ由テ之ヲ觀レハ被告ニ於テ辨藏方へ召喚狀持參セシ當時即チ
 明治十三年一月廿九日ハ辨藏ニ於テハ大竹半兵衛方ニ滯在中ニシ
 テ不在ナルコト明瞭ナレハナリ況ンヤ岩山村外四ヶ村戸長麻生元右
 衛門カ上申書ニ當聯合内岩山村秋葉吉左衛門長男辨藏ナルモノニ
 貸金ノ儀ニ付同郡大野村大竹勇次本年一月三十日當役場へ出頭ノ
 上_中右吉左衛門方へ召喚狀持參候處本人不在ニ付何分召喚狀渡方
 ニ差支ノ趣ニテ書面ヲ以テ本人役場へ出頭候様取計吳へキ旨被申
 出候ニ付直ニ脚夫ヲ以テ本人へ相達候處_中辨藏及ヒ吉左衛門ナル
 者ハ何レへ他出候哉不相分旨脚夫申歸依テ至急ノ儀ニハ本人不在
 ニテハ差問候趣直ニ勇次へ申談候處_中無趣ニテ召喚狀ハ持歸リ候
 云々トアリ夫レ如斯被告ニ於テ當時辨藏ノ不在ナルコトハ既ニ戸長

へ對シ自ラ明言セシコト判然タルニ於テチヤ故ニ東京裁判所千葉支
 廳管内八日市場區裁判所カ第一戸長第二大竹半兵衛外壹人ノ申立
 ナ証憑トナシ當時辨藏ハ不在ニアラサルモノト認定シタルハ相當
 ナリトス然レトモ被告カ明治十三年一月三十一日同區裁判所へ差
 出シタル願書ヲ閱スルニ秋葉辨藏へ相係ル貸金催促ノ儀御勸解願
 上候處被告人儀在宅ナレトモ苦情申立受取不申御召喚狀渡シ方戸長
 役場へ説諭願中ニ御座候處來ル五日ト御召喚日御直シ被成下度云
 云トアリ依テ之ヲ推究スルニ辨藏ノ不在ナルチ在宅シナカラ受取
 ラサルカ如ク申立ルモ畢竟召喚狀日付ノ改正ヲ請求センカ爲メノ
 旨趣ニ止マリ他ニ故意アルニアラサレハ被告カ所爲ハ改定律例第
 六條ニ依リ呵責シテ放免スヘキモノトス然ルヲ八日市場區裁判所
 ニ於テハ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ニ處斷シタルハ不當ノ裁判ナ

リトス
判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年七月十五日東京裁判所千葉支廳管内
八日市場區裁判所ニ於テ大竹勇次へ申渡シタル裁判ヲ平翻スルノ左
ノ如シ

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ改定律例第六條ニ照シ
出呵責

第五百六十三號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十三年五月四日上告
明治十三年九月十八日判決

山梨縣甲斐國西山梨郡
上府中組新柳町拾壹番

地平民關伊八郎方寄留

東京府平民山田「チヨ」長

女

山田トメ

明治十三年二月
二十三年十月月

右「トメ」カ明治十三年二月二日山梨縣警察署ニ於テ爲セシ口供左ノ如

自分儀困難打續キ當時下總國龍ヶ崎在中島村ニ寄寓罷在タル處自
分ヲバ母千代實家東京府下小石川住舊幕臣角田某方へ預ケ置ヘク
ト兩親協議ノ上實父橋本治郎兵衛該家へ連行途中如何ノ心得ナル
ヤ自分ハ同府下品川驛新宿妓樓酒向屋佐兵衛方へ金壹圓七拾五錢
ノ抵當ニテ預ケラレ其後治郎兵衛ハ死去シ母「千代」儀ハ自分ノ抵當

ト相成リタルヲ探知シタルモ僅カノ金員ニテハ受戻シ難キ趣ニ
 テ終ニ該家ニ生長致シ十四歳ノ節ヨリ娼妓稼相始メ十七歳ノ節同
 府下淺草區吉原京町二丁目菊本樓淺井「マス」方へ更ニ五ヶ年季ニ定
 メ金百貳拾圓借受該金員ハ佐兵衛方へ相渡引續キ娼妓稼罷在タル
 處明治五年十月五日御達ニ依リ藝娼妓共解放相成登時住所同府下
 小石川區小石川大塚久保町家根屋元次郎方へ引取ラレタルモ自分
 ニ於テハ親子二口ヲ糊スルノ手業モ覺ヘナキ故尙又淺井「マス」方へ
 參リ娼妓稼中明治五年十二月中品川驛新宿貸席業島崎樓某方へ參
 リ娼妓稼致シ居タルモ思敷キト無之間他ニ轉スルナラハ能キ途モ
 有之歟ト前後ノ差別ナク明治七年十二月中群馬縣上野國群馬郡深
 谷驛稻荷町喜ノ字屋宇兵衛ヨリ金四拾圓借受テ同家ニ於テ枕付藝
 妓稼可致積リニテ同縣廳へ鑑札御下附ノ義出願セシ處親子二口ノ

活計相立サル筈ハ無之間府下ニ立戻ルヘク様再應ノ御説明ニテ無
 餘儀立戻リ尤借用金ハ証人品川驛品川新宿二丁目明石屋平吉ヨリ
 辨償致シ吳レ暫ク同家ニ厄介相成リ居明治八年四月頃吉原江戸町
 貸席業日野屋樓某方へ參リ娼妓稼致スニ付金五拾圓借受タルモ稼
 高ノ内ヨリ悉皆辨償致シ一先小石川富坂町へ立戻リ廢業致シタル
 モ漸々小遣錢等ニ差問今一稼致シ而シテ方向ヲ相立度ト存シ明治九
 年九月中同府下深川假宅富岡門前町貸席業野尻福太郎方ヨリ金三
 拾圓借受娼妓稼罷在明治十一年七月頃ト覺同府下根津八重垣町貸
 席業新時樓某方ヨリ金四拾圓借受内金ヲ以テ福太郎方へ返辨致シ
 明治十一年十二月中同町貸席業大磯屋二丁目木久兵衛方ヨリ金八拾
 圓借受内金ヲ以テ新時樓へ相返シ久兵衛方ニ於テ娼妓稼中明治十
 二年四月中吉原住町貸席業杉戸屋齋藤茂十郎方ヨリ金百五圓借受

内金ヲ以テ新時樓へ返辨致シ然ル處同樓ニ於テ馴染タル同府下本郷區湯島梅園町壹番地菅村信定ナル者ト夫婦約定致シ置タル故一時モ早ク廢業致シ度ト思慮セシモ漸々借財ハ相嵩ミ去リ連此儘娼妓稼致シ居ル上ハ自分ノ望ミモ不相立百方思按盡果タルヨリ忽然不良ノ心ヲ生シ田舎貸席業ヨリ金員借受茂十郎方へ借用殘額金八拾圓返辨致シ置僅カノ間タ娼妓稼致シ寄留主ノ透ヲ窺ヒ逃走シ府下ニ潛居中女髮結ヲ業トシ程アツテ債主へ示談ヲ遂ケ當金何程殘金ハ細々ト返辨セハ一時不義理ヲ免カル、ト存シ兼テ懇意ナル新吉原江戸町二丁目平民引手茶屋吉川由造方へ明治十二年七月頃ト覺へ相越シ前顯不良ノ顛末ヲ相談及ヒタル處金員ヲ借受逃走スルモ到底己ノ意ヲ全フスルコトハ容易ニ無之寧ロ金員若干借受置未タ寄留籍ヲ移サ、ル前空証券ヲ以テ自分ニ係リ訴ヲ起シ彼是苦情

ヲ唱へ居ル内押付テ示談セハ債主ニ於テモ他ニ目途モ之アル間敷全ク其運ニ參リタラハ當金何程ト相定メ殘金ハ月賦ニ致シ置ハ却テ都合宜シカラント申聞ラレ尤ノ事ト存シ其意ニ基キ然ラハ向處ヲ周旋致シ呉ル、様尙及依頼置折柄信定儀自分方へ遊ニ參リタル夫幸ト存シ右ノ次第申聞就テハ同人ノ債主ニテ自分へ金拾五圓貸置タル姿ニ空証券相認信定へ渡シ置タル處明治十二年八月二日自分ヲバ群馬縣上野國群馬郡深谷驛仲町貸席業諸尾寛作方へ娼妓出稼致シ金百五拾圓借受ルコトニ啻合致シ置タル旨由造ヨリ申聞ラレ則對談ヲ遂ケ差當リ金百圓ハ由造及ヒ淺草區田町二丁目十四番地平民山崎新吉兩名ニテ封金ノ儘預リノ名義ニテ寛作ヨリ借受内金ヲ以テ由造ノ手ヲ經テ茂十郎方へ金九拾圓相返シ皆濟相成タルニ付同日廢業相願小石川區役所へ尙寛作方ニ於テ娼妓寄留出稼致シ

度旨出願セシ處漸クニシテ廢業セシヲ又候娼妓稼ハ不當ノ趣ニテ到底御聞届無之容子ニ付俄ニ淺草區田中元吉町へ移籍ノ儀相願御聞届相成タルヲ以テ同區役所ヨリ寄留籍或ハ添鑑受取り該籍等ハ寬作へ相渡更ニ金百五拾圓ノ証券及ヒ對談書へ自分負債主ニテ証人ハ淺草田町平民田中甚之助ト相認メ寬作へ相渡シ則跡金五拾圓受取此ニ於テ曩ニ計リ置タル通り寬作ト約定相整ヒ既ニ金百圓由造手許ニ受取りタルヲ見計ヒ其段信定へ内報及ヒ依テ同人ヨリハ東京裁判所管内二丁町區裁判所へ前顯拾五圓ノ証券ヲ以テ出訴及ハセ置タルニ付同所ヨリ召喚相成依テ自分出頭ノ上能キニ日延願置既ニ寬作ト同行深谷驛へ出發致スヘクト同府下馬喰町二丁目宿業武藏屋某方へ泊シタル處明朝出頭可致旨ノ召喚狀到達セシニ付尙出頭ノ上日延致シ置タル故同府下美土代町葺屋某儀ハ寬作ノ知

リ人ニテ拾五圓位ハ何レニカ示談ニ運ハセ置間同人俱々深谷驛へ可相越様申聞ラレタルモ素ヨリノ謀計ニ付此處分結果ニ至ルマテハ出發致シ難キ旨申斷リ其後信定ヨリハ公然催促ヲ受ケ無餘儀体ニ仕成身代限り差出スヘク旨ニ申立置タルモ揭示御下相成ル上ハ實印ニ封印セラル、趣キ承リ若シ封印セラル、節ハ後日ノ計策ニ差支ル故當金五圓餘ハ漸々辨償致スヘキトニ示談整ヒタル趣ニ仕成シ區裁判所へハ願下致シタルモ彼是ト苦情ヲ唱シ寬作方へハ相越サルトニ決セント欲シタルモ同宿ニテ數日賄ヲ受ルキハ其ノ恩義ニ引サレ自然相越サ、ルヲ得サル場合ニ立至リナハ失策ト相心得何レヘカ引取貰ヒ度ト存シ由造並ニ新吉ヲ請人ニ相立同人方へ引取貰ヒ同家又由造方ニ於テ漸々談事ニ及ヒ然ラハ同策ヲ以テ他ヨリ金員引出シ度ト由造等ニ相謀リ新吉ヲシテ相尋タル處偶々山

梨縣甲斐國西山梨郡新柳町貸席業竹下「コウ」方ニ於テ娼妓入用ノ旨
 新吉ヨリ傳言有之依テ同府下淺草町名失念雇入口入業中屋某方ニ
 參リ竹下「コウ」ト引合金百五拾圓借受ル約定整ヒタルニ就テハ急々
 寄留籍或ハ添鑑等出願致スヘク據「コウ」ヨリ申聞ラレ則出願致スヘ
 クノ處貸家主ノ不存故出願ノ運ヒニモ至リ兼彼是躊躇罷在タル内
 尙新吉ヨリ生所知ラサル藤川秀吉或ハ箱屋ノ媪婆等ニ周旋方倚賴
 及ヒ折柄明治十二年十一月日失念同府下本所區中ノ郷元町雇入口
 入業村上平吉方ニ右新柳町貸席業關伊八郎ナル者參リ居ル趣承リ
 新吉俱々該家ニ相越シ金百五拾圓伊八郎ヨリ借受出稼致シ度趣掛
 合及ヒタルモ百貳拾圓ノ外ハ貸渡シ難キ旨申聞ラレ然ラハ兩様ノ
 内一ヨリハ必ス出金相成ルコト思料セシニ付田中元吉町ヨリ同區
 田町一丁目ニ移轉致シ同所ニ於テ竹下「コウ」方ニ寄留娼妓出稼ノ添

鑑等御下附相願置タルモ同人方ニ於テハ目下娼妓ハ入用無之旨申
 斷ハラレ依テ金百廿圓借受伊八郎方ニ相越スコニ決シ就テハ竹下
 「コウ」ト約定取結ノ節由造方ニ於テ自分並ニ信定連借ノ名義ニテ田
 町二丁目代書人吉村高明ヨリ金三拾五圓借受タル空証券認メ嘗テ
 高明ニ渡シ置タルニ付明治十二年十一月日失念打合ノ通リ同人ヨ
 リ二丁目區裁判所ニ出訴致サレ自分並ニ信定共召喚ヲ受ケ則自分
 耳出頭ノ上一週間日延致シ置然レモ伊八郎或ハ平吉等ニハ密々ニ
 致シ置明治十二年十一月十二日更ニ百廿圓ノ借用証券又ハ對談書
 等差入ル節ハ自分並ニ母「千代」立會ノ上証人田中甚之助村上平吉等
 ナ相賴ニ連署ニテ伊八郎ニ相渡シ内金四拾圓ハ新吉受取一先同人
 方ニ立戻リ翌十三日新吉俱々平吉方ニ相越シ殘金八拾圓伊八郎ヨ
 リ新吉ニ受取尤該金配賦方ハ百圓ハ寛作ニ相渡シ餘金ハ新吉或ハ

由造方ノ借金へ差引又ハ母「千代」ノ小遣錢等ニモ幾分カ渡シ呉ル様
 新吉へ相頼置俱々同人方マテ立戻ルヘクノ處明十四日甲府ニ向出
 發致スヘク様達テ申聞ラレ無餘儀平吉父某ト俱々出發明治十二年
 十一月十七日伊八郎宅へ着致シ明治十二年十一月廿日山梨縣廳へ
 娼妓營業鑑札御下附願出タルニ付業衣ヲ整フヘク旨新柳町貸席業
 今澤嘉吉ヨリ申聞ラレ然ル處素々謀略ノ次第モ有之故兼テ約定ハ
 致シ置タレトモ税金其他ノ出費高金六圓月々差出ス約定ハ致シ置
 ス尤自分ハ東京ノ規則ト同様ノ積リニテ參リタルニ付約定等ハ讀
 聞貰ハス知ラス識ラス印影押捺致シタル趣ニ申聞又ハ女工場ニ於
 テ縫裁等ヲ學フコハ素ヨリ嫌ヒニ付該所ニ於テ營業ハ致シ難キ旨
 申立就テハ業衣等整フルニ及ハス素服ニテモ宜シキ旨苦情申唱タ
 ルニ付兎ニ角伊八郎ノ歸甲マテ業衣ハ何レニモ心配致ス間購求可

致様嘉吉ヨリ申勸メラレタルモ再應相斷然ラハ伊八郎歸宅迄業衣
 貸渡スヘク筈ナレトモ差當リ有合ノ業衣無之間新製可致ニ付氣ニ
 入タル縞柄撰フヘク旨申聞ラレ折柄呉服屋ノ參リタルニ際シ一應
 縞柄相撰ヒタル處紺鼠四崩脫走縮緬及ヒ紺藍縦縞脫走縮緬ノ表へ
 何レモ緋ノ胴裏裾廻シニハ甲斐氣絹ヲ附襟ハ黒縞子掛ケ通ノ上着
 下着ノ二枚或ハ白濱縮緬輝一枚濃鼠色金織出博多帶壹筋ムキニ絞
 形緋縮緬ノ表ニテ胴裏ハ桃色木綿裾回シ及ヒ袖裏ハ淺黃縮緬襟ハ
 薄淺黃絹縮ヲ附タル五品ニテ相應ノ旨申答へ置タル處漸クニシテ
 出來セシ趣ヲ以テ貸呉レタルニ付先以テ借受營業罷在タルモ一刻
 モ早ク東京へ立戻リ度ト一途ニ思ヒ居折柄情夫信定ヨリ信書壹封
 郵送有之タルニ付直チニ返事致シ置タルモ同人方へ届カサル趣ニ
 テ心配ノ餘リ明治十二年十二月廿六日突然信定儀自分方へ參リ娼

妓「シケ」ナル者ヲ相招キタルニ付同人ノ別席へ立出ル隙ヲ窺ヒ信定ノ寢所へ忍ヒ入り彼是事情ヲ述ヘント欲シタルモ何分其隙モ無之間前顯借受タル衣類五品共自分品ノ趣キニ申爲シ信定へ相渡シ歸京ノ上ハ質入ナト又ハ賣拂フナト致シ同人ノ小遣又ハ母「千代」ノ小遣ニ相用ヒ呉ル様及倚頼且自分儀ハ前顯ノ計策既ニ發覺致スヘク哉モ難量自然出訴及ハル、ヒハ急々ニハ歸京相成難ク旨申聞同人ト相別レタル處村上平吉及ヒ關伊八郎ヨリ自分ニ掛リ山梨縣警察本署へ吟味願出依テ同署ニ於テ御推問中高明ヨリ係ル事件ニテ東京裁判所ヨリ御呼喚相成タルモ御糺訊中ニ係ルヲ以テ該裁判所へ出頭致兼夫々御推糾ヲ受ケ到底押包ニ難ク有様申立候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年四月廿六日静岡裁判所甲府支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀關伊八郎外壹人ヨリ金圓借リ受ケ同人共方へ寄留致シ娼妓營業ノ上其稼高ヲ以テ償却ス可キ証券差入レ置クモ素ヨリ同人共方へ寄留致サ、ル念慮ニシテ該金ヲ欺キ取り又ハ今澤嘉吉ヨリ衣類借リ受ケシテ菅村信定へ自己ノ所有ト申偽リ該品ヲ相與フル科賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ右賍金百貳拾圓以上ナルヲ以テ懲役十年ノ所情法ヲ酌量シ三等ヲ減シ懲役三年申付ル

但無形ノ証券ヲ拵へ菅村信定外壹人ヲ債主ノ趣ニ仕成シ同人共へ右証券ヲ相渡シ區裁判所へ出訴致サセタルハ輕キヲ以テ一ノ重ニ從テ科ス

山梨縣七等警部水野勝ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年五月四日司法卿ヲ經由シテ大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

山田「トメ」詐欺取財或ハ不應爲ノ罪科併發セシニ依リ別紙第一號ノ如ク明治十三年三月二十三日静岡裁判所甲府支廳へ公訴及ヒ明治十三年四月廿六日第二號宣告書ノ如ク賊盜律詐欺取財ヲ以テ懲役十年情法ヲ酌量シ三等ヲ減シ懲役三年ニ處斷相成タル處其適律當ヲ得サルモノト思惟セリ抑「トメ」ノ伊八郎ヨリ借受タル金百貳拾圓ハ互相ノ契約ヨリ成立タル金質ナレハ隱謀詭計ヲ以テ人ヲ欺瞞シテ之ヲ取ルノ類ニ非サルコトハ該犯ノ供出ト証券ノ明文トニ因テ明カナリ然ラハ則之ヲ以テ贓金ト云フヘキ乎假令金借ヲ需ムルニ陰形詐欺ノ術策ニ根據スト雖モ互相ノ契約ヨリ起ル金質ト云ハサルヲ得サルナリ然ラハ則彼是併贓スルハ全ク金質ヲ混同シタルモノナリ夫レ然リ公正ノ証券ニテ借受タル金質ハ私訴ニ係ルモノニシテ衣類ニ係ルハ贓金ナリ如何トナレハ該証券ノ如キハ有形ノ公証

ナリ其念慮ノ如キハ徵驗ナキ無形物ナリ何ソ無形ヲ以テ有形ノ公証ヲ破ルノ理アラシキ乎果シテ然ラハ贓金名狀スヘキ質アルニ非ス尤衣類ノ如キハ純乎タル贓ナリ抑該品ヲ受ルヤ其始ノ事主ト該犯トノ間ニ於テ詐欺ノ念アルニ非サレハ竊ニ之ヲ菅村信定ニ質入賣却ノ兩事ヲ倚託セシハ詐欺取財ノ念發生シタルモノナラシク既ニ今澤嘉吉ヨリ諮詢ヲ受ルニ際シ彌犯蹟ヲ隱滅セントシ其所在ヲ知ラサル旨ニ主張セシハ有形ノ詐欺ナリ然ラハ則二罪ヲ分割シテ一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ處斷スヘキヲ静岡裁判所甲府支廳ニ於テハ彼是併贓シテ處斷セリ是其公判當ヲ得サルモノト認メ候間書類正副三通相副へ此段上告仕候也

辨明

被告人山田「トメ」カ關伊八郎ヨリ領收シタル金百貳拾圓ハ「トメ」カ情

夫菅村信定ナルモノト曾テ夫婦約束ヲ預期シ之ヲ遂ントスルニ根
 據シタル謀計ニ成立テルモノトス何トナレハ前ニ掲ケル本犯「トメ」
 カ口供ニ顯然トシテ素ヨリ其田舎娼妓營業ハ本心ニナクシテ畢竟
 關伊八郎ヲ詐欺シ金圓ヲ取り出ス爲メナルノミ又其返償ノ念慮ナ
 キモ口供上明瞭ナレハナリ故ニ關伊八郎外壹名ニ對シ娼妓營業ノ
 上ハ其稼キ高ヲ以テ返償ノ義務ヲ爲ストノ借用証券ヲ差入レシ心
 術右ニ原因スルニヨリ該借用証券ノアルアリト云フヲ以テ人民互
 相ノ契約上ヨリ起リタルモノトナスヲ得ス然ラハ則チ今澤嘉吉ヨ
 リ借り受ケ以テ其娼妓營業上ニ用ヰタル衣類ヲ自分ノ所有物ナル
 旨詐言シ菅村信定ニ托シ質入及ヒ賣却ノ依頼ヲ爲シタルハ詐欺取
 財條第三項人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲シトアルヲ以テ論ス可
 キ犯罪ト均シキヲ以テ原裁判所ニ於テ賊盜律詐欺取財條ニ照シ窃

盜ニ準シテ論シ贓金百貳拾圓以上懲役十年云々ト宣告シタルハ失
 當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年四月廿六日静岡裁判所甲府支廳ニ於
 テ山田「トメ」ニ言渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナシトス、
 第五百六十四號

○判文(懲役人逃走ノ件)明治十三年八月廿五日上告
 明治十三年九月十八日判決

愛知縣三河國東加茂郡

大給村二十七番地平民

市川善六長女

市川イト

明治十三年八月
 二十六年五月

右「イト」カ明治十三年七月六日及ヒ八月十一日大坂裁判所ニ於テ審問
ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀犯罪ノ始末御尋問相成候處明治十三年七月一日警察署ニ於
テ拇印シタル口供ノ通相違無之候事

明治十三年七月六日

自分儀明治十年六月二十四日愛知縣ニ於テ懲役場逃走致候始末前
書申立候通相違無御座候但右御處刑ヲ受タルハ明治八年四月七日
ニ有之候

明治十三年八月十一日

明治十三年七月一日大坂府警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ陳述シタル口供
左ノ如シ

自分儀竊盜ノ科ニ依リ懲役十年御處刑ヲ受ケ愛知縣監獄署ニ於テ

服役中明治十年六月二十四日隣檻即チ懲治檻ニハ囚徒モ無之平常
往來出來候所同檻ノ戸締錠前明キ掛リアルヲ見受ケ自分同檻ナル
長谷川「スエ」ナルモノ豫テ逃走ノ心組アルヲ相語ラヒ居候事故右逃
路アル旨ヲ話シ候所共ニ逃去ルヘク相談ノ末「スエ」ニハ是迄逃走ヲ
謀ルコト度々ナレハ若シ成ラサルキハ間頭本多「ミツ」ニ叱ラレ、コト必
定ユヘ此度ハ思止マル旨申スニ付然ラハ自分一己越獄致スヘク就
テハ誰ヘモ話シ呉レザル様口留致シ置同夜即チ明治十年六月二十
四日午後第十一時頃ト覺ヘ會テ間頭本多「ミツ」ヨリ貰受タル木綿袴
壹枚唐木綿袴纏壹枚并ニ自分服役中ノ機織賃金ニテ購求シタル唐
木綿反物壹反ヲ携ヘ密ガニ便所ノ傍ヨリ懲治檻ヘ抜ケ出同所錠前
ヲ明ケ守卒衆役場見廻ニ立越サレタル透ヲ窺ヒ内圍小門ヨリ忍出
テ藪蔭ヲ通り外圍ヲ乗越ヘ路傍ニ於テ着衣ヲ換ヘ御渡相成居柿色

衣ハ堀川へ投捨申候夫ヨリ名古屋町外レ迄立越シ候頃ハ既ニ夜明
 渡リ候ニ付所持セシ反物及絆纏ノ貳品通り掛ノ住所姓名知ラサル
 モノへ代金壹圓貳拾錢ニ賣拂右金ヲ以テ旅費ニ充テ七八日ヲ經テ
 兼テ知ル三河國額田郡岡崎驛字六本榎ノ木村金ト申者方へ相越候
 所折節同國郡名不知トロト申所ヨリアブ六ナルモノ相越シ雇人口
 入レヲ業トスル旨ニ付同人へ依頼同國郡名不知西ノ郡村小田多吉
 方へ相雇ハレ罷在リ同村西町峯村兼吉ト馴染同明治十年十一月中
 同人方へ引取り貰ヒ相暮シ居明治十一年三月末右兼吉ヨリ貰受タ
 ル越後結城裕壹枚綿南部絆纏壹枚縮單物壹枚ヲ携へ同家へ無斷立
 出テ同國横須賀席貸業吾妻屋方へ入込ニ飯焚致居リ同年即明治八
 月中該家立出テ同國米水津旅店川崎屋ニ至リ相雇ハレ罷在リ明治
 十二年三月日不覺同家立出テ三河國額田郡岡崎驛康生町加藤シ

方ニ潜匿罷在リ明治十三年二月十日頃同國額田郡八帖村鈴木多造
 養子曾平ト同伴東京へ立越候心組ニテ出立同國西加茂郡足助本町
 旅店ニ泊罷在ル所巡查方ニ見咎ラレ候ニ付其節曾平知リ人同町
 住居塚田助三郎ノ保証ヲ以テ引渡サレ歸村ノ途中曾平共々逃走當
 大阪府下八軒家ニ着致候所南區綿屋町傭人口入業西尾清次郎居合
 セ同人へ金貳圓ヲ以テ奉公口周旋相頼ニ曾平ハ順慶町一丁目石田
 榮造方へ自分ハ大和橋西詰大和町宿屋業大和屋伊兵衛方へ相雇ハ
 レ罷在ル所同家客人ノ爲ニ二階ヨリ突落サレ脊其他手等ヲ痛メ保
 養致シ少シク快氣ニ赴キ候ニ付同區長堀橋筋二丁目松田宗助方へ
 相雇ハレ罷在ル所明治十三年六月二十九日當御署へ拘引相成候事
 前條越獄逃走ノ後所々ニ雇ハレ罷在候ニ付金錢物品等盜ミタル義
 ハ勿論給金前借等ハ不致候事

前條雇ハレ先并ニ峯村兼吉鈴木曾平加藤「シ」等へモ自分懲役場逃
走ノ義ハ深ク押包ニ罷在候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月十七日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ
言渡シタリ

其方儀曩ニ愛知縣ニ於テ懲役十年ノ處刑ヲ受ケ服役中逃走スル科
懲役人逃律ニ依リ棒鎖二日ノ處婦女ナルヲ以テ監獄則第八條第五
則闇室ニ換へ闇室入二日ノ上更ニ懲役十年申付ル

市川「イト」ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月廿五日大
審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

私儀去ル明治九年四月二十一日頃愛知裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニヨ
リ懲役七年申付ラレ右服役中病氣ニ付私原籍三河國東加茂郡大給
村二十七番地實父市川善六方へ責付ニ相成病氣全快ノ上明治十三

年二月頃愛知縣足助本町警察署へ護送ニ相成候途中逃走仕大坂府
へ罷越同年六月日不覺大阪府下ニ於テ捕縛ニ相成御取調ノ末同年
八月十七日大坂裁判所ニ於テ更ニ懲役十年ノ御處刑被申渡候ト雖
私儀ハ前顯ノ通り曩ニ愛知裁判所ニ於テ懲役七年ノ御處刑被申渡
居候間服役中逃走致タルトノ御裁判ハ不服ニ有之候事

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

「イト」カ大阪府警察署ノ口供中ニ自分儀竊盜ノ科ニ依リ懲役十年御
處刑ヲ受ケ愛知縣監獄署ニ於テ服役中云々明治十年六月二十四日
午後第十一時比ト覺云々便所ノ傍ヨリ懲治檻へ抜ケ出錠前ヲ明ケ
守卒衆役場見廻リニ立越サレタル透ヲ窺ヒ内圍小門ヨリ忍出云々」
又大坂裁判所ノ口供中ニ自分儀明治十年六月二十四日愛知縣ニ於
テ懲役場逃走致候始末前書申立候通相違無御座候但有御處刑ヲ受

タルハ明治八年四月七日ニ有^レ候^レ右ノ如キ明瞭ナル罪跡ヲ記載シ
 アルニ異辭ナク拇印セシハ其自カラ受ケシ處刑ト又自ラ犯ス處ノ
 罪科トヲ承認セシ而已ナラス明治八年四月七日愛知縣ニ於テノ宣
 告書寫ノ末文ニ懲役十年申付ルトアリ又明治十年六月同縣監獄掛
 ノ手續書ニ本月二十四日夜懲役十年市川「イト」ナル者獄舎崩ヨリ西
 明獄舎へ抜ケ出逃去及ヒ候云々トアリ左スレハ「イト」カ上告ハ事實
 ニ相違セシモノトス故ニ大阪裁判所ニ於テ「イト」カ罪ヲ斷スルニ曩
 ニ愛知縣ニ於テ懲役十年ノ處刑ヲ受ケ服役中逃走スル科懲役人逃
 律ニ依リ棒鎖二日ノ處婦女ナルヲ以テ監獄則第八條第五則閤室ニ
 換ヘ閤室入二日ノ上更ニ懲役十年申付ルト宣告シタルハ審理ヲ盡
 シタル適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年八月十七日大坂裁判所ニ於テ市川「イ
 ト」ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者
 也

第五百六十五號

○判文〔違式ノ件〕明治十三年八月二日上告
 明治十三年九月十八日判決

大坂府下西成郡三軒屋
 村十三番地平民

淡路 嘉一郎

明治十三年八月
 三十一年十一月

右嘉一郎カ明治十三年七月二十日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述
 シタル口供左ノ如シ
 自分犯罪ノ趣前警察本署へ差出候手續書ノ通聊相違無之候事

明治十三年六月廿四日大坂府警察本署へ差出シタル手續書左ノ如シ

私御召出ノ上西區幸町通り五丁目小池庄太郎同居小池吉三郎ナル者へ私持船幸貴丸名義ヲ貸シ渡シ候始末御尋ニ付左ニ奉申上候

此段私義ハ船具商ノ者ニ御座候處明治十三年五月中旬兼テ懇意

罷在候前顯小池吉三郎義私方へ罷越回船ノ義ニ付種々咄シ致シ

候末同人義其頃買受候光及丸ナル船ニ御鑑札無之候處右船賣拂

候ニ付御鑑札無之差詰相困リ候間私持船幸貴丸名義ヲ借シ吳候

様依頼ニ付一旦相斷リ候へトモ光及丸鑑札舊賣主ヨリ未タ不參

至急ノ場合ニ付達テ貸シ吳レ候様頼候間私義宜カラサル義トハ

存候得共懇意上情實ニ流レ右依頼ヲ承諾仕就テハ右光及丸ヲ幸

貴丸ノ名義ニ致永吉丸ト改號ノ上石川縣越前國坂井郡泥原新保

浦秤谷吉六へ賣渡候趣ニテ吉三郎私方へ右願書へ調印致吳候様

申シ依テ私義調印ノ上同人へ相渡候處右書面ヲ以テ御府へ假御

鑑札相願候義ニ御座候然ルニ御召出ノ上右所持船幸貴丸ノ名義

ヲ貸渡シ候始末御尋ノ旨奉畏候右ハ全ク前條ノ通り心得違ヲ以

テ小池吉三郎へ所持船名義ヲ貸シ遣候段深ク奉恐入候元幸貴

丸ハ無名ノ姿ニ相成私手元ニ繫船罷在候事

明治十三年七月廿六日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年二月中大坂府下西區幸町通五丁目十九番地小池

吉三郎ノ依頼ヲ受ケ同人ノ所有ニ係ル廻船幸及丸ヲ石川縣下越前

國坂井郡新保浦秤谷吉六ニ賣渡スニ所有ノ廻船幸貴丸ノ名義ヲ以

テ出願シ鑑札ヲ受クル科違式重ニ問ヒ懲役二十日吉三郎ノ從ト爲

シテ論シ一等ヲ減シ懲役一十日可申付處情狀ヲ酌量シ又一等ヲ減

シ減シ盡テ科ナシ

大坂裁判所檢事小菅榮脩ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月二日本院ニ上告スル爲メ控訴上告手續第二十九條ニ循ヒ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

淡路嘉一郎

右ハ所有ノ船名ヲ貸シ官許ヲ受ケタル始末違式ノ見込ヲ以テ本年七月十四日當裁判所へ公訴セシ處同月廿六日別紙宣告書ノ通り斷了セリ蓋シ本犯嘉一郎ヲ小池吉三郎ノ從トナシ處斷セシハ勿論ナリト雖モ其情法ヲ酌量シ減盡シテ無科ト斷決セリ夫酌減法ハ罪正條アルモノヲ情法ヲ酌ミ律ノ範圍内ニテ輕減スルコトニテ有罪者ヲ減盡スノ謂ニ非ラサル可シ然ルチ減盡シテ無科ト言渡シタルハ裁判法律ニ違フモノト見込候依之一件書類相添此段上告候也
大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

明治七年十二月第三百三十四號布告斷罪無正條條例ニヨリ情法ヲ酌量シテ其罪ヲ輕減スルハ素ヨリ刑名ノ範圍内ニ止マルコトニテ有罪者チシテ無科ニ歸セシムルチ得サルモノトス依テ大阪裁判所ニ於テ被告人淡路嘉一郎カ小池吉三郎ノ依頼ヲ受ケ所有ノ船名ヲ貸シ官許ヲ得タルチ以テ違式重ニ問ヒ懲役二十日吉三郎ノ從トナシ懲役十日ニ擬シタルハ其當チ得ルモ情狀ヲ酌量シ減盡シテ無科ト斷決シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルチ以テ明治十三年七月二十六日大阪裁判所ニ於テ淡路嘉一郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

淡路嘉一郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ違式重ニ問ヒ懲役二十日小池吉

三郎ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役十日贖ヲ聽ス
贖罪金七拾五錢

第五百六十六號

○判文〔酒類稅則違犯ノ件〕明治十三年七月十五日上告
明治十三年九月二十日判決

滋賀縣近江國滋賀郡松

本村平民

南部文次郎

明治十三年七月
二十八年

右文治郎カ所爲ニ對シ明治十三年七月六日京都裁判所大津支廳ニ於
テ言渡シタル裁判左ノ如シ

其方儀清酒釀造高ノ内八石八升七合隱蔽一件審理ニ及フ處其申立
ノ要領ハ明治十三年二月二十一日本期釀醪檢査ヲ受ル際未熟ノ醪

アルヲ以テ第一二三四番ノ桶ノミ檢査受ケタルニヨリ逐次清酒ニ
搾リ揚ケ而シテ本期釀造米ノ内ヨリ生シタル小米貳石ヲ以テ釀造
高八坪十二仕舞ノ外ニ釀造シ是ヲ本醪中ニ混同シ其内八石八升七
合ヲ第一番空桶ニ入置明治十三年三月六日殘醪檢査ヲ受ル節外出
中ニ付父治兵衛ヨリ第五六九番ノ桶檢査受ケタル處治兵衛ニ於テ
一番桶ニ醪ノアルヲ心附カス本期釀造ハ此三桶ニテ相濟タリト申
上タルニヨリ尙ホ空桶ヲ點檢セラレ一番桶ノ醪御發見御諮問ヲ受
ルニヨリ已ニ檢査濟搾リ殘リノ醪ト答辨ナシタルレ何分退隱ノ身
ニシテ營業關預セサルニヨリ全ク誤想ニ出タルコニテ決テ隱蔽ス
ル意念ニアラス故ニ歸宅ノ上其醪ハ今度檢査請可キモノト申上タ
リ若シ該醪ヲ隱蔽スル意想アルコトナレハ既ニ搾リ上ケノ清酒ヲ其
儘陽ハニ差出シ置譯ナシトシ又南部治兵衛カ申立ノ要領ハ明治十三

年三月六日殘醪検査ヲ請ル節戸主文次郎ハ他出中ニ付自分ヨリ第五六九番桶ノ醪検査ヲ受ケ本期釀醪ハ此三桶ニテ相濟タリト申上タレハ尙ホ先ニ検査濟ノ空桶ヲ點檢セラレ第一番桶ニ醪七分通りアルハ醪カト御尋ニ付既ニ二月二十一日御検査濟ノ搾リ殘ト答マレハ桶中ヲ改メラレ搾リ殘ニハアラサル旨申聞ラルト雖モ自分ニ於テハ一途ニ搾リ殘ト心得居ルヲ以テ更ニ仕込タル醪ニハ之レナキ段申答タル處搾リ上ケノ清酒御點檢ノ上検査濟ノ醪ト搾リ上ケノ清酒ト石數適當スルヲ以テ初メテ小米ヲ以テ別ニ釀造シタルヲ心付全ク誤想ニ出タルヲ述ヘ且退隱ノ身ニシテ營業上關係セサルニヨリ戸主文次郎へ御尋下サレ度ト申立居ル内文次郎歸リ來ルニ付其後ノ一切存セサル旨申立タリ又酒造取締滋賀縣九等屬麻生秀三郎カ申立ノ要領ハ明治十三年二月二十一日醪検査トシ

テ南部文次郎方へ出張第一番桶ヨリ第四番桶迄検査ヲ遂ケ第五六九番桶ハ未熟ナルヲ以テ追テ検査ニ及フ可キヲ申聞ケ其仕込米ヲ尋問スルニ三拾五石五斗ニシテ是ニテ本期釀造皆濟ナリト申立タリ因テ醪検査受印簿へ記入歸廳シ其後三月六日再ヒ該家へ出張其途中ニ於テ文次郎ニ面會シ該家ニ同行ス然ルニ同人ニ於テハ止ヲ得サル用向アル旨ニテ父治兵衛ニ託シ外出ス依テ治兵衛ヲシテ先導セシメ第五六九番桶ノ醪検査ヲ遂ケタルニ是ニテ皆濟ト答ヘタリ故ニ尙ホ順次桶ノ空實ヲ調査スルニ先ニ検査シタル一番桶ニ醪七分通りアルヲ以テ其事故ヲ尋ルニ不熟ニ付搾リ殘シタリト答フ依テ醪ノ摸樣ヲ検査スルニ搾リ殘ノ醪ニアラス更ニ仕込ミシ醪ナレト決テ新ニ仕込ミタルモノニアラスト申立ルニヨリ搾リ上ケノ清酒ヲ點檢スルニ検査濟ノ醪ト適當ナルヲ以テ尙ホ詰問セシ處始

メテ更ニ小米ヲ以テ仕込ミタル醪ナリト申立テ詳細ノコトハ知ラサルニヨリ戸主文次郎へ聞取吳ト申ス内文次郎歸リ來リ該醪ハ二月二十一日申上タル米三拾五石五斗ノ内ト申答ルヲ以テ醪石數不相當ナルヲ詰問セシニ全クハ三拾五石五斗ノ外ニ小米二石程醸造シ今日ニ至ル迄事實申告セサリシハ恐入タル旨申立タリトアリ」爰ニ於テ其事實ヲ推測スルニ官ノ検査ヲ請ルニ該リ若シ治兵衛カ事實ヲ辨セサル者トセハ文治郎ニ於テ其検査請可キ醪ヲ示セスシテ外出スルノ理ナシ治兵衛ニ於テモ亦之レカ先導ヲナスコト得サル可シ然ルニ治兵衛カ容易ニ検査官ヲ先導シ應對ナシタルハ素ヨリ事實ヲ知りタル者ト認メサルヲ得ス」又該醪ハ隱藏ノ情アルニ非ス只治兵衛カ一時ノ誤想ナリト云ト雖モ桶ノ中調査ヲ受ケ搾リ殘ニ非サルコト明瞭ナルヲ尙ホ検査濟搾リ殘ト主張シテ既ニ清酒點檢セラレ

醪數ト酒數ト適合スルニ至テ始テ小米ヲ以テ醸造セシ者ナリト述ルハ是誤想ニ非サルコト明ナリ」況ヤ既ニ検査濟ノ桶ニ移シ置ニ於テヤ又其醪八石八升七合ノ内小米二石ノ醪凡三石二斗ヲ除キ四石八斗八升七合ハ寒造八坪十二仕舞中ノ醪ナレハ検査表ノ醪石高ニ併セハ百四拾三石二斗三升三合ニシテ即チ八坪一仕舞ノ醪拾一石九斗三升六合餘ナリ是ヲ醪検査表ニ照シ前造ノ八坪一仕舞ノ醪十一石五斗三升八合ニ比較スレハ三斗九升八合ノ過ヲ生ス又寒造ハ前造ヨリ一仕舞ニ付現米一斗過分ノ醸法ナルモ三斗九升八合ノ過ヲ生スルコトアル可カラス右ノ理由ナルヲ以テ第一番桶ニ移シアル八石八升七合ノ醪ハ隱藏ナシタル者ト認定ス仍テ右科酒類稅則第三則改正第六條ニ照シ科料金六圓六錢五厘申付ル但シ隱蔽ノ醪八石八升七合ヨリ搾リ上ケノ清酒六石四斗七升七

合ト粕二十四貫萍五升ハ取上ル

南部文次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月十五日
大審院ニ上告ノ要領左ノ如シ

第一條

京都裁判所大津支廳ノ宣告狀ノ前書ニ(滋賀縣九等屬麻生秀三郎申
立ノ要領ハ明治十三年二月二十一日醪檢査トシテ南部文次郎方へ
出張第一番桶ヨリ第四番桶迄檢査ヲ遂ケ第五六九番桶ハ未熟ナル
ヲ以テ追テ檢査及フ可キヲ申聞其仕込米尋問スルニ三十五石五斗
ニシテ是ニテ本期釀造皆濟ナリト申立タリ)ト記載有之ハ其期御檢
査ニ相成候醪石數尋問サレ依テ第一二三四桶其仕込米四十九石七
斗八坪七仕舞ニテ皆濟ナリト申上候得共該員ヨリ第五六九番桶ハ
未熟ナルヲ以テ追テ檢査及フ可キ旨御達ヲ蒙リタレトモ其仕込米

ノ御尋問ヲ受ケ三十五石五斗ニシテ是ニテ本期釀造皆濟ナリト申
上タルヲ無之而已ナラス査員ニ於テ追テ檢査ニ及フ可キ醪ヲ其期
ニ御尋問ナルカ如キノ道理アルヘケンヤ
又(其後三月六日再ヒ該家へ出張其途中ニ於テ文次郎ニ面會シ該家
へ同行ス然ルニ同人ニ於テハ止ヲ得サル用向アル旨ニテ父治兵衛
ニ託シ外出ス)ト有之モ自分ハ止ヲ得サルノ用向出來外出スル途中
ニテ査員ニ面謁ナシタレトモ自家へ同行シ父治兵衛ニ託シタルヲ
無之自分ハ査員ニ對シ歸家シ得サルノ事故ヲ中立相斷置キ暫時過
去リ一應自家へ立戻リ直チニ出向シ次第ナリ
又(文次郎歸リ來リ該醪ハ二月二十一日申立タル米三十五石五斗ノ
内ト申答ユルヲ以醪石數不相當ナルヲ詰問セシニ全ク三十五石五
斗ノ外ニ小米二石程釀造シ今日ニ至ル迄事實申告セサリシハ恐入

タル旨申立タリト有之ト雖モ二月二十一日ニ米三十五石五斗ノ内
ト申答タル覺無之又醪石數不相當ナルヲ詰問セラレタルトモ無之
而已ナラス全クハ三十五石五斗ノ外ト申上タルト無之然ルニ自分
歸宅ノ上釀造米ノ内ヨリ相生シタル小米二石ト寒造八坪十二仕舞
ノ米ト混交シ釀造仕候ニヨリ該醪ハ今這御檢査可相受義申上候處
査員ニ在テハ父治兵衛兩言ニ涉リ自分ニ對シ該小米醪ハ前以届ケ
置クヘキモノト被仰自分ニ於テハ前以届ケ置クヘキ御制則ニ非
ラサレトモ強テ届ケ置クヘキモノト壓制サレ今日ノ况景ニ立至リ
タルトハ不心得ナリシヲ以テ只管御斷申シタルナリ

第二條

又同裁判書ニ(其事實ヲ推測スルニ官ノ檢査ヲ受クルニ該リ若シ治
兵衛カ事實ヲ辨セサルモノトセハ文次郎ニ於テ其檢査請ヘキ醪ヲ

示指セスシテ外出スルノ理ナシ治兵衛ニ於テモ亦之レカ先導ヲナ
スヲ得サルヘシ然ルニ治兵衛カ容易ニ檢査官ヲ先導シ應對ナシタ
ルハ素ヨリ事實ヲ知リタルモノト認メサルヲ得スト有之候得共査
官ニ於テ月日ヲ定メ前以御出張ノ御達シ無之然ラハ自分ニ於テモ
止ヲ得サルノ用向ニテ外出スルヤ固ヨリ當然ノ事ナリ且ツ該外出
セシモ一時ノコニシテ父治兵衛ニ事實託シ置タル譯ハ無之ト雖モ
該父ニ於テ假令其事實知ラサルトモ戸主外出中へ突然査員御出張
トアレハ家族ノ義務トシテ先導スルハ固ヨリ其所ロナリトス由是
觀之誤想ト謂サルヲ得ス

又(又其醪八石八升七合ノ内小米ノ醪凡ツ三石二斗ヲ除キ四石八斗
八升七合ハ寒造八坪十二仕舞中ノ醪ナレハ醪檢査表ノ醪石高ニ併
セハ百四十三石二斗三升三合ニシテ即チ八坪一仕舞ノ醪十一石九

斗三升六合余ナリ是レチ醪検査表ニ照シ前造八坪一仕舞ノ醪拾一
 石五斗三升八合ニ比較スレハ三斗九升八合ノ過チ生ス又寒造ハ前
 造ヨリ一仕舞ニ付現米一斗過分ノ釀法ナルモ三斗九升八合ノ過チ
 生スルコアルヘカラス右理由ナルチ以テ第一番桶ニ移シアル八石
 八升七合ノ醪ハ隠造ナシタルモノト認定スト有之候得共其釀法ニ
 於ケルヤ現米一斗過分アルチ扣除スルニ斗三升三合ノ過チ生スト
 雖モ米ノ上下ニ據ルノミナラス時トシテハ沸騰スルセサルニモ有
 之又雇夫於テ水量チ多分ニ汲ミ込ミタルニ原由シタルモ知ルヘカ
 ラス且ツ石數ヲ確定シ釀造スルコハ酒造家一般ニ於テ事實能ハサ
 ル所ナリ又自分ニ在テモ隠造スル存慮アルモノナラハ醪及清酒其
 場所ノ外ヘ隠シ置クヘキニ別紙圖面ノ場所ニ据桶清酒ハ清酒ノニ
 アリ右理由アルニ關セス(隠造ナシタルモノト認定ス依テ右科酒類

税則第三則改正第六條ニ照ラシ云々トノ裁判ハ不伏ニシテ該裁判
 チ破毀シ復審ヲ需ムル所以ナリ

辨明

第一條

上告要領第一條ハ其三項トモ原裁判所ニ於テ原被及連累等カ供述
 ヲ裁判宣告文ノ前ニ序列シタルニ對シ駁難シ以テ破毀チ請フモノ
 ナリ如斯ハ上告シ得ヘカラサル事柄ナルチ以テ辨明チ與フノ限リ
 ニアラス

第二條

上告要領第二條第一項ニ判文ニ治兵衛カ容易ニ検査官チ先導シ應
 對爲シタルハ云云トアルヲ指摘シ自分ノ外出ハ一時ノコシテ父
 治兵衛ニ事實ヲ托シ置タルニアラス假令其事實チ知ラザルモ戶主

外出中突然査員ノ出張トアレハ家屬ノ義務トシテ先導スルハ固ヨ
 リ其所ナリ云々申立レモ原裁判ノ簿記ヲ案スルニ治兵衛ハ爾前二
 月二十一日検査官出張ノ節モ藏場ニ案内且應答ヲナシタルニアラ
 スヤ而シテ當時其既ニ検査ヲ經タル第一第二第三番ノ桶ノ中其第
 一ヨリ第三番迄ハ其醪逐次清酒ニ搾リ當今空桶ノ振合ヲ以テ第四
 番桶ヨリ検査ヲ受ケ査官ノ轉シテ其第一番桶以下ノ空實ヲ再檢シ
 額外醪ノコ、ニ在テ撞見スルモ尙ホ否ラサルノ強辨ヲナシ終ニ檢
 査官釀法ニヨリ釀醪ト清酒ノ斗量ヲ計算推究シ該一番桶醪ノ過剩
 ニ屬スルノ詰問ヲ受ケテ後チ漸ク始メテ小米ヲ以テ別ニ釀造セシ
 チ吐白シタルヲ以テ觀レハ原裁判所カ治兵衛カ容易ニ検査官ヲ先
 導シ應對ナシタルハ素ヨリ事實ヲ知リタルモノト認メサルヲ得ス
 ト斷定セシハ相當ニシテ敢テ不當トナスヲ得ス

又同條第二項ニ判文ニ其醪八石八升七合ノ内小米ノ醪モ三石二斗
 ナ除キ云々トアルヲ指摘シ其釀法ニ於ケルヤ云々過チ生スト雖モ
 米ノ上下ニ依ルノミナラス時トシテハ沸騰ノスルトモ知ルニモ關
 シ又雇夫ニ於テ水量ヲ多分ニ汲込タルニ原由シタルモ知ルヘカラ
 ス云々ト申立レモ原裁判所へ申立置カサレハ原裁判所カ審判ノ案
 件トナサ、リシハ相當ナリトス况ンヤ上告人カ明治十二年十二月
 十五日滋賀縣廳へ清酒釀造方法取調書ト題シ具上シタル書面ヲ檢
 スルニ掛米幾干麴米幾干水量幾干ト各其釀造ノ斗量ヲ記載シ差出
 シオキタルモノニ反違スルノ申立ナルヲ依テ原裁判所カ第一番
 桶ニ移シアル八石八升七合ノ醪ハ隱造ナシタルモノト認定シタル
 ハ相當ニシテ敢テ不當トナスヲ得ス

前條々ノ通ナルヲ以テ明治十三年七月六日京都裁判所大津支廳ニ於テ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノ也

第五百六十七號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十三年八月十六日上告
明治十三年九月二十日判決

山口縣長門國安武郡平

安古町三百四拾三番地

士族

林 要 平

明治十三年八月
二十一年一ヶ月

右要平カ明治十三年八月三日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受陳述シタル口供左ノ如シ

前書犯罪ノ始末ハ警察署ニ於テ申立ノ通相違無之候事

明治十三年七月廿一日大坂府警察本署ニ於テ吟味ヲ受陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀明治十三年五月五日大坂府警察本署臨時監守雇被命翌六日南區鱧谷西ノ町浦田「トヨ」ナル者拘引相成候ニ付晝飯爲致候節不宜事トハ乍存只管憫然ノ次第ト存候ヨリ全人ニ向ヒ何歟依頼ノコトアラハ無遠慮申述フ可キ旨内々申聞タルニ府下末廣橋側福本喜助方ニ金百圓余預ケ置タルヲ以テ受取ノ上何用ニカ可致トノコトナレモ其義ハ其儘差置候處追テ同人義ハ一旦居宅ニ監守付添御差戻ノ上夫々居宅御取締相成尙住吉警察署ニ御送付ノ際竊ニ預リ吳レ度旨ヲ以テ自分袂ニ風呂敷包ヲ投入候ニ付是ヲ改メタルニ紙幣百四拾五圓程有之目下窮迫ノ折柄不計不良心ヲ生シ此儘拐帶當地ヲ立去

リ形跡ヲ暗マヌ可クト同日午後六時頃一等巡査野上伯孝へ外出ヲ
届兼テ馴染ナル府下松島席貸業寺家治兵衛方へ立越シ娼妓「トヨ」ナ
ル者ヲ招キ翌七日午後四時頃迄流連遊興ヲ盡シ候事

歸宿ノ上病氣ノ旨ヲ以テ郵便ニテ引込届ヲ差出シ同日午后五時頃
安治川口ヨリ運輸丸ニ乗組全九日山口縣下三田尻ニ着シ翌十日自
宅へ立歸リ同十二日東京へ出立ノ趣ヲ以其實福岡縣へ向ケ郷里ヲ
發シ同十五日福岡縣下博多ニ着シ旅店服部勘三郎方ニ止宿該賍金
ヲ以テ頻リニ遊興ニ立越シ兼テ知己ナル該縣三等巡査五島猪三郎
ナルモノヲ旅宿ニ招キ此度巡査志願ノ爲メ態々本地へ立越シタル
ニ付幸ニ舊誼ヲ棄テス可然盡力致吳度トノ依頼ニ及ヒシ處素ヨリ
數年來別懇ノモノナレハ如何様共周旋可致トノ事ニテ職務上要用
ナル書籍ヲモ貸與へ已ニ志願ノ手續ニ可及ノ處尙分不宜所業ヲナ

シ遁去リ候事故兎角心中不穩決兼居候中猪三郎ニ對シ巡査或ハ屢
等奉職中逃亡セシハ如何ノ處分ニ相成リシヤト暗ニ自分逃走ノ始
末ヲ諷シ其處分ノ輕重ヲ尋子又ハ身分不相應ナル種々ノ物品ヲ買
求メ候ヨリ遂ニ猪三郎ニ怪マレシヤ同十九日福岡縣警察署ヨリ御
呼出ヲ受ケ遊興又ハ物品代金等出所御取糺相成候ニ付前顯始末有
体申立候事

右賍金百四拾五圓ノ内松島寺家治兵衛方ニ於テ遊興代五圓四拾錢
五厘ヲ拂ヒ娼妓「トヨ」へ三圓拾錢ヲ與へ其他現在ノ通銀時計外拾五
點ヲ買求メ又ハ福岡ニテノ遊興代或ハ該地迄ノ旅費雜用ニ遣拂ヒ
尙殘金五拾圓六拾三錢三厘所持罷在候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月七日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申
渡シタリ

其方儀明治十三年五月六日府下西成郡難波村浦田吉太郎妻「トヨ」ヨ
リ寄託ヲ受クル所ノ金百四拾五圓ヲ持逃スル科詐欺取財律ニ依リ
窃盜ニ準シテ論シ士族ナルヲ以テ改正閏刑律ニ照シ除族ノ上懲役
十年申付ル

但贓金賠償ノ爲メ資力限リ取揚ル

林要平ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月十六日大審
院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

私儀明治十三年一月十三日ヨリ府下北區中ノ島四丁目九番地海老
池「タカ」方へ止宿罷在候處同年五月五日午后二時頃府下南區寺町大
仙寺ヨリ日本橋警察署詰一等巡查岡田正章ト申者私兼テ懇意ノ者
ニ有之處同日車夫ヲ以テ只今大仙寺迄罷越可申旨申參リ直ニ車夫
同道ニテ右大仙寺へ罷越候處岡田ナル者不居合外ニ不知人貳名居

合岡田歸宅迄相待吳度旨被申相待居申候處其内岡田歸宅致同人申
ニハ貴家へ依頼致度儀有之余ノ義ニ無之府下東區石町ニ丸山ト申
人有之其方へ參リ委細聞取吳度依頼ニ付岡田ヨリノ書狀持參直ニ
丸山宅へ罷越シ承リ候處同人申候ニハ君監守ヲ頼度ニ付委細岡田
ヨリ聞取吳度被申候ニ付直ニ大仙寺へ歸リ其夜同寺へ一泊致翌六
日夜岡田林兩人探偵ニ被參私儀モ同道ニテ府下心齋橋鱸谷町「トヨ」
ト申者宅へ參リ夜明迄立番致シ翌七日朝三人同道ニテ大仙寺へ引
取夫ヨリ丸山ト申者宅へ參リ立番ノ様子申候處直ニ「トヨ」ト申者宅
へ參リ吳度様被申同人宅へ罷越シ候處岡田正章「トヨ」ナル者大仙寺
へ連歸私儀ハ「トヨ」宅へ残り居申候内探偵方山田ト申人被參候ニ付
私儀ハ大仙寺へ引取丸山ト申人ノ差圖ヲ受「トヨ」ナル者へ晝飯差遣
シ候折柄「トヨ」申ニハアナタへ内々ニテ頼度儀有之府下南區キク江

橋ト申所へ古手屋有之其方へ金百圓預ケ置候ニ付其金御受取被成候テ如何様ニテモ被成候様申ニ付其所書留置夫ヨリ山田ト申人ハ「トヨ」同道ニテ「トヨ」宅へ被參私儀モ丸山ノ差圖ニテ「トヨ」宅へ罷越シ候處同人宅ニテ山田ト申人ハ「トヨ」ノ宅へ被參候跡ニテ「トヨ」ナル者懷中ヨリ風呂敷包取出シ私ノタモトニ入レ「トヨ」申ニハ此金持參リ候テハ甚タ都合惡シクニ付アナタへ預ケ置候ニ付如何様成リ共被成候様申候ニ付右包其儘請取置候處同日私不知人壹人參リ「トヨ」同道ニテ他出致候ニ付同日午後七時頃山田ト申人へ依頼シ私止宿所迄歸ルト申置人力車ニテ松島町一カト申席ニ參リ右包取調候處金百四拾五圓有之其夜一カニテ一泊致翌七日私父病氣トノ報知ニ依リ右金員「トヨ」へ返シ度ト存シ「トヨ」宅へ參リ候得共何方へ參リ候哉行衛相分リ不申無據同日午後五時頃山田ト申人へ父病氣ニ付

歸縣致度ノ書狀差出シ置瀛船運輸丸ニテ歸縣仕候處父病氣追々全快ニ付私義ハ東京へ參リ候ト申父ヨリ金拾圓ヲ受取福岡迄參リ私朋友五島猪三郎ト申者宅へ罷越シ同人へ右金員相預リ候次第物語致右金員少々費用致シ候ニ付少々金子貸吳度及依頼候處此節金支ニ付二三日相待候様申ニ付博多行ノ町兼松ト申宿屋へ止宿致居申候處五月十九日福岡警察署ヨリ御呼出シニ付直ニ同署へ出頭ノ上右「トヨ」ヨリ金員相預リ候段上申候處私儀御留置ニ相成リ夫ヨリ大坂府へ御引渡シニ相成リ御尋問ノ上右次第上申候處詐欺取財及閏刑律ニ依リ除族ノ上懲役十年御申付ニ相成リ候得共私ニ於テハ依頼ヲ請相預リタル金員持逃詐欺取財ト御宣告相成リシハ不服ニ付右「トヨ」成ル者一應御召出シノ上御吟味被成下度奉願上候前條ノ理由ナルヲ以テ大坂裁判所判決ナシタル宣告從服難致依之

今般上告候條公明奉仰裁判候也

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

口供ハ犯人ノ申立ル處ヲ其儘記載スルモノニ付既ニ口供讀聞ノ時
犯人ニ於テ相違ノ穢アリト考量スレハ即時申立改正ヲ求ムヘク官
吏ニ於テ非理ニ拇印セシムルノ謂ハレナシ又犯人ニ於テモ自ラ犯
サ、ル罪ヲ記載シアル供狀ニ拇印スヘキ條理ナシトス然ルニ要平
カ大坂府警察本署ノ口供中ニ〔住吉警察署へ御送付ノ際竊ニ預リ吳
レ度旨ヲ以テ自分袂へ風呂敷包ミヲ投入候ニ付是ヲ改メタルニ紙
幣百四拾五圓程有之目下窮迫ノ折柄不計不良心ヲ生シ此儘拐帶當
地ヲ立去リ形跡ヲ暗マス可クト云々〕右ノ如キ罪跡ヲ記載シアルニ
異辭ナク拇印セシハ自ラ犯ス處ノ罪科ヲ承認セシモノニテ要平カ
「トヨ」ヨリ預リタル金圓ヲ所持シテ歸縣セシハ其際父病氣ノ報知ヲ

得「トヨ」ノ所在ヲ探ルニ暇ナク止ムヲ得ス其儘歸縣セシ「トヨ」ニテ持逃
セシニ非ストノ上告ハ事實ニ相違セシモノトス故ニ大坂裁判所ニ
於テ詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ士族ナルヲ以テ改正閏刑
律ニ照シ除族ノ上懲役十年申付ル但贓金賠償ノ爲メ資力限リ取揚
ルト宣告シタルハ審理ヲ盡シタル適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年八月七日大坂裁判所ニ以テ林要平ニ
申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第五百六十八號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十二年十一月一日上告
明治十三年九月廿一日判決

兵庫縣但馬國出石郡鍛

冶屋村士族

薄田隼矣

明治十二年十月
二十九年十月

右隼矣カ所爲ニ對シ明治十二年十月二十三日神戸裁判所姫路支廳管

内豊岡區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十二年二月三日安達大吉ニ係リ訟求シタル金五拾圓贈

與ノ契約証書ハ真正ノモノナリト申立ツルト雖モ大吉ハ更ニ覺ヘ

ナキ証書ナル旨申立ツルノミナラス井上深美外六人及ヒ大塚憲ノ

証言仍ホ其方數度ノ自白ニヨリ全ク詐爲シタルモノト認定ス其上

他參留中擅ニ旅行スルヲ以テ右科ノ中一ノ重キ賊盜律詐欺取財條ニヨリ竊盜ニ準シテ論シ未タ財ヲ得サルヲ以テ例第十三條ニ照シ除族ノ上懲役四十日申付ル

但該証書ハ取上ル

隼矣ニ於テハ右ノ裁判ニ服セズ明治十二年十一月一日大審院ニ上告ノ要趣左ノ如シ

第壹條

判文中前略大吉ハ更ニ覺ヘナキ証書ナル旨申立ツルノミナラス云々抑モ大吉自署押印ノ証ナルノミナラス同人祖父與三左衛門ト俱々安達家相續ノ代理ヲ囑シ委任証ヲ與ヘタルナランカ且出願ニ當ルヤ其以前數回ノ督促及ヒ結局ニ至テ自分証人安達市郎へ紹介ヲ乞フタルナランカ而シテ又勸解ヲ受ケ不調ナリタルモノトセンヤ然

ルヲ徒ラニ無根ノ苦情ヲ聲ラシテ知ラサルモノトスルモ奈ソ是レ之レヲシテ確言トセラル、不服ノ第一ナリ

第貳條

判文中井上深美外六人略証言云々抑モ井上深美外六人ノ証言トハ明治十年十一月二十七日安達家相續決定ノ景狀ニシテ右親族中井上敦ナル者ノ言ニ曰ク薄田隼矣ハ全ク心切上ヨリ出テタルモノナリト陳ヘタルナランカ且親族等証書ノ真正不真正ヲ証明スルモノニアラス素ヨリ自分ハ相續急劇ノ事ニ涉ルモノニシテ自分口端ヲ開キ大吉相續ノ決定トナリ而シテ祖父與三左衛門大吉ト俱々委任証ヲ與ヘタルモノナラン然ルヲ徒ラニ井上深美外六人ノ証言杯トテ自分ヲ壓スル不服ノ第二ナリ

第三條

判文中大塚憲ノ証言云々抑モ大塚憲ノ証言トハ何事ナルソ大吉ハ
 曾テ裁判所へ捧クル書類中野紙一枚ニ大吉ノ印形ヲ押捺シ記名依
 頼ノ証ト自分書記シタル書類ヲ以テ此書類ハ前キニ自分ヲ勸解へ
 書類引渡願出其節右野紙ヲ受取タルモノト具述則チ書面ヲ以テ呈
 シタリ依テ自分へ尋問セラル、義ハ右野紙ニ大吉ノ印形ヲ押捺シ
 其方自筆ニテ記名依頼ノ証ト記シタル書類ハ何等ノ故ヲ以テ爲シ
 タルモノソト自分はレニ答フルニ右ナル書類ハ其原由大吉所有ノ
 地ヲ賣却シタルモ買主小作人ノ紛紜アツテ大塚憲へ小作人ノ内ヨ
 リ談話依托セシ處大塚憲一己ノ心意ニ適ハサルヲ以テ自分へ協議
 尤モ自分へ協議セシ原因ハ安達家ニ於テハ一ツトシテ自分へ協議
 セサルナキヲ以テ鄙拙ノ研究ヲ舉リ隨テ依囑セリ爾後大塚憲ヨリ
 自分ト兩名ノ書面ヲシテ大吉出張可致旨申遣ハシタル處大吉祖父

與三左衛門ヲ代人トシ之レニ付スルニ大吉ノ印形ヲ持タセ但馬國
 城崎郡豊岡中町安田治三郎方寓大塚憲方へ來リ候ヨリ何分大吉ノ
 委任証及ヒ其他ノ書類無之テハ着手致シ難キヨリ則大塚憲所持ノ
 野紙ヲ出シ之レニ大吉ノ印形ヲ與三左衛門へ押捺致サセ其押捺ノ
 書類野紙ハ悉皆大塚憲へ相預ケ置キタリ其外云々ト答スル處即座
 ニシテ大塚憲ヲ呼取ラレ同人へ尋問相成タルニ果シテ憲ハ自分ノ
 申ス如ク自白シ全ク憲領置シタルモ事件破談ト相成ヨリ大吉へ返
 却シタル旨申述へタリ由テ該官始末景狀ヲ尋問セラルレトモ大塚
 憲茫然トシテ其事情ヲ陳述スル能ハス稍暫クスルモ其答へ出來カ
 タケレハ引取テ手續書可差出旨ト達言アリ而シテ後雙方引取其日
 午後五時ト覺ホシキ頃大塚憲自分ヲ尋不來リ申聞クルハ今日尋問
 ノ廉々如何手續書可差出哉相談致ス間自分はレニ答フルニ聊カ自

分ノ指揮スル處ニアラス剩へ一應ノ相談ナクシテ大吉へ返付セラレタルハ全ク平常大吉ノ差添人又ハ代人ヲ兼ネタル駈野精藏ト懇意ナルカ故ニ大吉ノ左袒ヲシテ引渡サレタルモノナリト答へタリ其後大塚憲初メ自分証人安達市郎及ヒ大吉自分喚徴相成有記名依頼ノ証ト記シタル押印ノ野紙ハ誰ヨリ受取タルモノナルト大吉へ尋問セラレ、處果シテ大吉ハ大塚憲ヨリ受取タルモノト自白ナシタル此時該官大吉ヲ叱セラレテ曰ク彌大塚憲ヨリ受取タルモノニ相違無之哉再三入念セラレ然ラハ薄田隼矣ヨリ勸解上ニテ受取タルモノト駈野精藏代書差添人ニテ書面差出シタルハ是レ全ク詐リナルカト大吉一言ノ辨ナクシテ口書ヲ取ラレタリ爾來自分ノ口供甘結トナリ主任官判事補森谷強恕侯之レチ自分へ讀聞ケラレ自分ハ口供甘結案ヲ拜聽摺印シ了ツテ溜所へ退キタル處大塚憲自分ノ

座へ來リ申聞ケルハ曾テ記名依頼ノ証ト記シタル野紙ハ駈野精藏及ヒ大吉段々ノ依頼ニ由テ返却致シタルモノニテ全ク自分へ相圖ヲサル事情ヲ吐露セリ然ルチ大塚憲ノ証言杯トテ謝金五拾圓ノ約定証書ハ何レノ原由ヨリ起リタルモノヤ知ラサル大塚憲ヲシテ大吉覺へナキト稱スルニ引証徑庭ノ說ナル牽強附會ハ自分ノ服セサル第三ナリ

第四條

判文中尙ホ且其方數度ノ自白ニヨリ全ク詐爲シタルモノト認定云云抑モ自分ハ何等チ自白シタルヤ元來勸解上タリトモ大吉ヨリ謝金可請取筋無之ト申述へタル事更ニナシ況ンヤ其他ノ口供ニ於テモ又然リ且自分証人安達市郎ヨリ結局ノ手續書差出シタルナランカ然ルチ市郎証言ヲモ打省キ全ク詐爲シタルモノトノ認定是レ何

レノ認定ナラン全ク活眼實着ノ認定ニアラシト自分ノ服セサル第
四也

五條

判文中其上他參留中擅ニ旅行スルヲ以テ右科ノ中一ノ重キ云々抑
マ池參留中出發スルニ當テヤ其届書ヲ郵送シ後チ喚徴ニ應シタル
モノナレハ巡查ヲシテ捕得ナリタルモノニ無之只警察署ノ取調ニ
差支ユルヲ以テ雇人へ申聞ケラレ雇人同行販寓シタル上ハ聊カ官
ノ捕得順序ヲ經タルモノニ無之奈ソ是レヲシテ科ト名ツクルニ足
ラン然ルヲ旅行スルノ科抔トテ二罪トセラル、全ク種徳ヲ伸告セ
サル意トノ認定ナラン自分ハ假令大審院ニ於テ縛ニ就クモ飽マテ
種徳ノ專恣壓制ヲ伸告セントノ決意ナルヲ擅ニ旅行スル抔トテ罪
名ヲ論セラル、不服ノ第五ナリ

第六條

判文中賊盜律詐欺取財條ニヨリ竊盜ニ準シテ論シ未ダ財ヲ得サル
ヲ以テ例第十三條ニ照シ云々抑モ詐欺取財ノ條タル其趣旨既ニ財
物ヲ詐リ取リタルヲ以テ贓ニ計ヘ刑名竊盜ニ準シ論スルモノニシ
テ現在財物ヲ詐リ取り了ツテ後チナルヲ論スルモノナランヤ素ヨ
リ詐欺取財ノ條中監臨主守監守スル財物ヲ詐取スル者云々ヲ除ク
ノ外未ダ財ヲ得サルヲ以テ竊盜ニ準シ何等ヲ減スルノ明文ナシ况
ヤ詐欺シテ財ヲ取リタル心意寧口盜心ト稱シテ然リ然ルヲ自分提
供ノ証書ハ假令詐爲シタルモノト認定他律ニ援引比附セラル、モ
既ニ詐欺シテ財ヲ取り得タルヲ以テ發覺シタルモノニ無之且自分
証人安達市郎ノ紹介及ヒ勸解上分理解釋后不調民事上口供結果ト
ナリタルモノヲ徒ラニ告發ト稱シ數回織ルカ如キ警察署ノ係合及

ヒ回答初メハ逃走ノ求刑タル赴キニシテ其后チ詐爲文書ノ求刑ト
ハ聊カ自分ノ疑惑スル處釀スノミナラス証書詐爲シタル認定チシ
テ是レチ詐欺取財ノ條ニ充テ斷セラル、尤モ甚敷不服ノ第六ナリ

第七條

前條々手續及ヒ不服ノ要領チ具陳シ以テ奉上告候仰願クハ判事玉
乃膝下事情矜恤ノ洞察チ垂レサセ自分愚妻常ニ病褥ニ臥シタルチ
モ其療養チ願ミス安達家事件ニ身チ抛チ右愚妻ノ死去セシ際スラ
其絶命ノ期ニ逢ハス机ニ憑リ筆ヲ採リ豊岡ニ寓セシ際右死去ノ報
知チ得テ驚愕漸ク葬祭ノ禮チ終エ又候事件ニ身チ委子タル自分ノ
義務チ大吉推察シ給與シタル約定書チモ妄リニ他人無情ノモノニ
教唆セラレ幸ヒニ原由種徳ノ私憤チシテ壓セラレタル景狀自分ノ
身自由チ得ルモノトセハ絶カツテ玉乃膝下ノ尊顏前ニ於テ吐言致

シ度嗚呼書面上ニシテ重分ニ盡シ得サレハ此上神明ニ誓ヒ斯ク事
情ヲ玉乃膝下ニ通心祈ル所ナリ

隼矣ハ明治十二年十一月五日重テ左ノ上告追條チ差出シタリ

判文中但該証書ハ取上ル云々抑モ該証書タルヤ安達大吉自署押印
自分へ與へタルト雖モ大吉ハ更ニ覺へナキ証書ナル旨申立ツルノ
ミナラス井上深美外六人及ヒ大塚憲ノ証言仍ホ自分數度ノ自白チ
リトテ右証書ハ全ク自分ノ詐爲シタルモノトノ認定チシテ詐欺取
財條ニ援引比附セラル、上ハ所謂取與俱ニ和セサル証書ニシテ此
賍タル本主へ還付スルモノトセンヤ果シテ大吉へ還付スルモノト
セハ但該証書ハ取上ルノ理由チシトス然ルチ詐欺ノ賍ナリト認定
チシテ官へ取り上ケラル、トハ所謂取與俱ニ罪アルノ賍チラシヤ
是レ給沒賍物ノ律ニ抵觸スル自分ノ服セサル處ナリ

辨明

第一條 被告ハ最初豊岡區裁判所ニ於テ安達繁太郎死去ノ跡ハ大吉ニ相續セシムヘキヲ發議シ遂ニ其議ノ如クナリシヨリ謝禮トシテ大吉ヨリ金五拾圓ノ贈與ヲ受クヘキ契約ヲ爲シタリト述ヘ即チ該証書面ニモ「拙者儀兼テ安達與三左衛門方ノ雇人ニ有之處相續人繁太郎相果候故至急跡相續可致旨貴殿之指圖ニ依テ親屬へ掛合被下拙者ニ相續成功云々繁太郎遺留ノ財產多分拙者之所有ト相成候間貴殿ニハ五拾圓之謝金御渡シ可申候也」トアリテ右契約ノ原由ヲ掲載セリ而シテ被告ハ刑事ノ審問ヲ受クルニ際シ繁太郎ノ跡ハ其妻「スエ」ニ相續セシメンヲ發言シ且ツ親屬會議ノ席ニテ自分ハ別席ニ退キ吳レト申ニ付其場ヲ退キタリト改供シ井上深美外五名ニ於テモ被告ハ「スエ」ヲ以テ相續セシメンヲ主張シ云々ニ依リ被告

ナ別席ニ退ケタル旨ヲ証言シ右被告ノ後供ト符合スル上ハ後供ヲ以テ眞實ノ供述ト認メサルヲ得ス然ルニ大吉ハ素ト安達家ヲ分家セシ者ニテ同家ノ雇人ニ非ルノミナラス被告カ大吉ヨリ五拾圓ヲ受取ルヘキ確證ト稱フル契約ノ原因即チ大吉カ謝禮ヲ爲スノ點ハ右被告ノ自供ト深美外五名ノ証言トニ因リ詐偽ニ出テタルヲ自ラ明瞭ナリトス

第二條 被告カ明治十二年九月十三日ノ口供ニ「十二月十八日大吉自宅へ参リ右五拾圓謝金ノ義ニ付約定書ヲ仕渡ス旨申吳レ則大吉演述セシ儘ヲ認メ一應讀聞カセタル上大吉自署押印ノ上受取置候」トアリ而シテ明治十二年十月十五日ニハ前供ヲ變シ「甲第壹號証ハ大吉自署押印シタル界紙ヲ渡スニ付草案ヲ認メ讀聞候處異議ナキニ付大吉引取シ後自分記入シ余白之レヲキヨリ割書シタル儀ニ候事」

トアリ右若シ前供ノ如ク該証ハ大吉ヨリ自署押印シ渡セシモノナ
 ランニハ印紙ノ消印モ共ニ爲スヘキ筈又後供ノ如ク大吉ヨリ自署
 押印ノ界紙ヲ受取リタル後ニ記セシモノナルモ亦大吉承諾ノ証書
 ナレハ大吉ニ消印爲サシムヘキ筈ナルニ大吉於テ消印セサリシハ
 其供述ニ反スルノミナラス被告ハ豫テ大吉ノ押印シタル界紙ヲ受
 取リ居タルコトハ大塚憲モ証言シ現ニ大吉ノ印ノミヲ捺シタル紙面
 十六及ヒ大吉カ印鑑届ノ残りヲ所持セシニテ判然シ且ツ被告カ明
 治十一年六月大吉ニ掛リ僅カ六拾八錢ヲ請求スル訴ヲ起セシト明
 治十年十二月附ナル五拾圓ヲ請求セサリシハ當時被告ノ手ニ該証
 書ノ在ラサリシヲ徴スルニ足レリ依テ神戸裁判所姫路支廳管内豊
 岡區裁判所ニ於テ被告ハ該証ヲ詐爲シタルモノト認定シ賊盜律詐
 欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ未タ財ヲ得サルヲ以テ例第十三

條ニ照シ除族ノ上懲役四十日申付ル但該證書ハ取上ルト申渡シタ
 ルハ不法ノ裁判ニ非ス然ルニ被告於テ右該証ハ取上ルト申渡シタ
 ルハ給沒贓物律ニ牴觸スト申立レモ該証ヲ詐僞ト判定シタル以上
 ハ同律犯禁ノ物トアルニ當ルヲ以テ官ニ沒入スルハ至當ノコトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ明治十二年十月二十三日神戸裁判所姫路支
 廳管内豊岡區裁判所ニ於テ薄田隼矣ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ
 理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第五百六十九號

〇判文(鬪毆ノ件)明治十二年十二月四日上告
 明治十三年九月廿一日判決

宮城縣陸前國遠田郡西

野村半藏養弟平民

明治十二年十一月
二十四年

右長助カ明治十二年十一月十九日仙臺裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

自分儀同村平民佐々木養助ノ次男ニテ出生後間モナク實母ハ死去致候ニ付名モ存不申嬰兒ノ中ヨリ同村平民千葉半六ノ養育ヲ受ケ生長ノ後同人ノ養子トナリ明治四年月日失念更ニ同村平民佐藤市左衛門ノ婿養子ト相成一ケ年モ經過セサルニ家内不熟ノ儀有之示談ヲ以テ離別致シ養父半六方ニ立戻リ其後何ノ事業モ無之向來一身ノ生計ヲ立テ度存明治五年四月日失念養家ヲ立出名取郡岩沼本郷ニ參ル途中ニ於テ前年懇意ニ致タル宮城縣士族住所不知與住安太夫ニ出會其節向來ノ方向ヲ定メ度旨相話候處同人ノ懇意ノ由伊

貝郡島田村士族桑島仁松ト申者有之ニ付同人ヲ便リ指揮ヲ受ケ事業勉勵致スヘキ旨被申聞則チ安太夫ニ請仁松ヘノ添書ヲ貰ヒ直ニ島田村ニ罷越シ仁松相尋子候處同人ハ同村平民齋藤平馬方ニ農事働ニ參リ居候旨承リ直ニ平馬方ニ罷越シ仁松ニ面會安太夫ヨリノ添書ヲ差出シ以後世話ニ相成度旨依頼致シ其中日暮ニ相成該家主平馬ノ厚意ヲ以テ當日ハ同家ニ宿泊可致旨申聞候ニ付其意ニ任セ一宿致シ其緣故ヲ以テ仁松ノ保証ニテ壹ケ年給金拾貳圓ヲ以テ平馬方雇ト相成リ家族等ノ受領ヲ受ケ農事等勉勵致シ居候事
明治八年七月中島田村若者共數名連合致シ自分於テ兼テ不遜ノ行爲有之旨ヲ申立島田村ニ居住スルヲ差拒ムノ書面ヲ右若者等連名ヲ以テ雇主平馬ニ差送ラレタルヨリ自分於テハ暇ヲ乞ハサルヲ得サル場合ニ相成熟考致候處自分於テハ格別不遜ノ隙トテモ覺無之

然ルニ如斯冤枉ヲ以テ該村ヲ被追立候テハ向後何方ニモ身ヲ容ル
 ノ地ナカルヘカト存スルヨリ一時憤怒ニ堪兼右若者共ニ前條ノ次
 第詳細尋問ニ可及ト存候得共元來自分ハ他村ノ者ニモ有之就テハ
 事穩便ニ致方宜シカルヘシト思考シ同村平民齋藤庄三郎ニ依頼シ
 右ノ是非曲直ヲ爭ハス宥恕致シ是迄ノ通り該村ニ差置可吳旨詫申
 入候得共一切宥恕致ス勢無之遺憾ニ堪兼然ラハ前條ノ曲直ヲ相分
 ケ度旨申迫リ候處畜存外ノ癖アル人物ナリトノミノ返答ノ由庄三
 郎ヨリ被申聞是非共曲直ヲ分ケ度シト重テ申迫リ候得共後日明瞭
 スヘキ期モ可有之ニ付暫時耐忍致シ牧野村平民横山安五郎方ニ寄
 寓致方可然旨庄三郎ノ忠告ニ付其意ニ任セ凡二十日余モ安五郎方
 ニ厄介ニ相成居候中島田村平民小幡源重郎ニ依頼シ前書自分ノ居
 住ヲ故障致タル若者共ニ詫申入レ酒壹斗ヲ買求メ右若者共ニ振舞

平馬養子齋藤平藏モ立合和解相整ヒ再ヒ平馬方ニ歸參致シ以前ニ
 不變農事相稼罷在候處明治十一年六月二十五日ハ自分亡養母ノ年
 回ニ相當リ候ニ付郷里ニ立越吊祭ヲ相營ミ度存明治十一年六月二
 十一二日頃ト覺右ノ情實ヲ平藏ニ相語り右ノ入費ニ充ン爲メ金圓
 ナ借用致シ度旨依頼致候處金三圓貸與セラレ就テ島田村ノ如キ偏
 僻ノ地ニ一生ヲ送ンヨリ郷里ニ立歸リ生計ヲ立ルニ如ク間敷旨平
 藏ヨリ被申諭候得共自分於テハ年久シク該家被相雇殊ニ金圓ノ思
 借等モ有之依然奉公致度旨返答ニ及ヒ右平藏ノ諭言ヲ考フルニ自
 分モ年久該家ニ雇ハレ居候事故或ハ家人ノ懇親ニ馴レ氣儘ノ所行
 等ニ及タル儀ハ有之哉モ難計ト雖モ大ナル過失等ハ無之平藏ニ惡
 クマレ候程ノ事ハ覺無之候得共前書ノ有様ニ依リ考フルニ曩ニ若
 者共自分ノ居住ヲ差拒タルモ其源因ハ平藏ニ起リシナラン杯愚昧

ノ想像致平藏ニ遺恨ヲ抱キ其節ハ其儘郷里ニ立越シ右吊祭ヲ仕舞
再ヒ平馬方ニ立歸候事

明治六年頃ヨリ平馬妻「キワヨ」ト姦通致居右ノ始末ヲ平藏ニ覺知セ
ラレタル者カ明治十年四月七八日頃自分ヲ退ケントノ内議アルヲ
泄レ聞平藏叔父齋藤平右衛門ヲ頼ミ自分兼々怠慢ノ事ニ託シ以後
勉勵スヘキ旨ヲ以テ詫貫是等平藏於テ自分ヲ擯斥スルノ理由ナラ
ント存不圖惡心ヲ生シ平藏ヲ除カハ自分平馬ノ養子ニ相成ハ必定
ト思考シ時期モアラハ平藏ヲ他所ニ誘ヒ殺害ニ及ハント深ク心中
ニ謀居リ候旨檢事局御調ノ節申立候得共右ハ檢事局ニ於テ右様ノ
事可有之ト強テ御尋問ニ付右様ノ儀ハ一切無之旨辨白致候得共數
回ノ御糺問ニ付本意ナラハ其御推問ニ誣服致タル儀ニテ其實姦通
致タル事無之右「キワヨ」ナル者ハ自分該家ニ雇ハレ候以前ヨリ子宮

病ニ罹リ男女ノ交ハ出來サル由兼テ承リ居候尤自分雇ハレ以後モ
右病氣療養ノ爲メ灸ナト致ニ參リ候事モ承知居候右ハ本人「キワヨ」
ニ御尋問有之候得ハ其病氣ノ實否ハ明白可致候右ノ事情ニ付決シ
テ姦通致不申平藏ヲ殺害ニ及ント心中謀リ候儀ハ勿論無之併シ右
平藏儀ハ兎角自分ヲ疎ニ折ニ觸レ自分ヲ退ケン杯ト内議致シ或ハ
平藏トハ折節賭博相催候事モ有之其節毎ニ平藏ハ自分ニ對シ我儘
ノ振舞杯致候ニ付自分於テモ平藏ニハ兼テ不快ヲ抱キ居候去迎テ
雇主ノ養子ノ事ナレハ雇レ中ハ不得已平藏ノ意ニ隨ヒ居ルヘク若
該家ヲ暇取リ立歸ル時分ハ平藏ト喧嘩ニテモ致シ遺恨ヲ晴サンモ
ノトハ兼々思慮罷在候事

明治十二年三月日失念斷然暇ヲ乞平馬方ヲ立去ント存シ其趣平藏
ニ申出是迄ノ給金ヲ計算致候處金貳圓八拾錢借リ過ニ相成居候ニ

付返金可致ノ處貳圓金所持罷在候ノミニテ八拾錢不足致スニ付右不足金ハ賭博ヲ催シ勝得タル金ヲ以テ返却セント存居候中幸明治十二年四月六日ハ村内ノ稼業休暇日ニ付午後五時頃ト覺平藏叔父齋藤平十郎方ニ參リ候處同村平民桑島武之丞及平藏モ參リ合候ニ付幸ト存賭博ヲ催サント相勸メ候處平藏儀ハ直ニ承諾致候ニ付俱俱武之丞ニ相勸メ候處同人ヨリ場所ハ何處カト被尋候ニ付晚方ニ同村平民齋藤長右衛門方ニ參レハ場所ハ相分ル旨返答致其場相別レ午後八時頃ニ到リ時刻モ宜カラント存シ同村字小市郎作圍ニ於テ博戲催サント平藏ヲ誘引致シ自分所持ノ貳圓紙幣ヲ以テ平藏所持ノ壹圓紙幣貳枚ト交換致シ貰ヒ午後九時頃ニ到リ平藏ヨリ壹歩先ニ出宅同家屋續ノ木小屋ニ平藏ヲ待受同行致シ途中ニ於テ平藏ハ同村平民佐藤善三郎方ニ立寄ルト申ニ付自分ノミ先ニ小市郎作

圍ニ參リ程無ク平藏モ參リ手合ノ人數ハ未タ會合セサルヤト平藏ニ促カサレ自分迎ヒニ參ルヘシト存シ長右衛門方ニハ定テ武之丞參リ居ルヘクト存長右衛門方ニ參リ候處同人ハ留守ニ付猶立戻リ今ニ可參ニ付臥シ相待ント平藏ト供ニ木ノ根ヲ枕ニ打臥シ己ニ午後十時過ニモ相成タルト存シ平藏ハ前後不覺ニ熟睡致シ外ニ誰モ不參ニ付兼テ平藏ニハ遺恨有之己ニ該家モ暇ヲ乞ヒ立去ヘキ際ニ付平藏ヲ半死半生ニ致シ吳レ兼テノ恨ヲ晴シ立去ント忽然不良心ヲ生シ其傍ニ切り積ミアル薪ノ中ニ有之三尺程ノ棍棒ヲ以テ睡臥致居ル平藏ノ面部ヲ目的ニ毆打致尙ホ起返ル處ヲ重テ數度毆打シ平藏ハ滿面出血シ立上リ手向セントスルニ付棍棒ハ投棄其場逃去リ長右衛門ヨリ衣類ヲ借受ケ仕度ヲ整ヘ逃亡セント存シ同人方ニ參リ戶外ヨリ同人ヲ呼候處同人妻「ミサチ」并ニ姉「コマ」女ノ聲ニテ

家内ヨリ不在ノ旨ヲ答エ候ニ付大ニ失望致シ熟考致候ニ此儘逃亡致候得者直ニ惡事發覺スルハ必然ナリ却テ當地ニ止リ惡事ヲ包藏スルニ如カスト存付然ラハ今壹度平藏ノ有様ヲ認メント存シ再ヒ小市郎作圍ニ立戻リ見候處平藏ハ以前傷負ハセ候場所ヨリ三間程距タル畑中ニ蹈リ居候ニ付平藏々々ト呼掛候得共只痛悶ノ聲ヲ發スルノミニ付不圖憫然ノ情ヲ發シ平藏ヲ丘上ニ援ケ揚ケ置キ平馬方ニ立歸リ家人ハ已ニ寢靜タルニ付戶外ヨリ家人ヲ呼起シ然ル後チ自分ノ惡事ハ包藏シ只今脇方ヨリ歸路小市郎作圍ニ物騒ケ數音致シ候ニ付立寄見候處何人ノ仕業ニヤ平藏ハ重傷ヲ負イ人事モ不分倒レ居候ニ付報知ノ爲メ急キ立歸リタルト申詐リ候處平馬騷立チ所々ニ其趣報知致シ平藏兄齋藤平七佐藤多治右衛門同村平民黒須嘉七齋藤長右衛門等諸共小市郎作圍ニ駆ケ付ケ自分ハ平藏ノ着

シタル衣物ニ汚血染付キ見苦ト着用ノ衣類ヲ脱キ平藏ニ着セ換ヘタルハ若シ自分ノ衣類ニ血染等有之候テハ人ニ疑チ受ノチ恐レ前條ノ如ク取計リ齋藤平七宅迄昇キ歸リ右人々ト俱ニ平藏ヲ介抱致シ翌日則チ明治十二年四月七日御檢視ノ節平藏負傷ノ現場景況等御推問ニ付其實ハ包藏致シ種々申詐リ其後御探偵ノ節モ申詐リ居候處遂ニ明治十二年四月十一日巡查方御出張御拘引相成候事右平藏ニ山刀ヲ以テ傷ヲ負ハセタル旨大河原警察署ニ於テ申立且醫師ニ於テモ刃傷ノ旨診斷致候旨ヲ以テ御糺ニ御坐候得共前書ノ如ク平藏ヲ殺害スルノ意匠無之ケレハ山刀ヲ以テ切り付候所謂無之素ヨリ始メ出宅ノ節ヨリ山刀ヲ携不申全ク根棒ヲ以テ毆打シ傷負ハセ候儀ニ相違無之候然ルニ山刀ヲ以テ傷負ハセタル可ト今般猶御審糺ニ候處右面部ノ傷所刃物ヲ以テ切りタル如ク相見ヘ候ハ

毆打ノ際棍棒ノ切口尖リタル處ニ觸レ皮膚ノ裂ケタル者ト存候事
 明治十二年十一月二十二日仙臺裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
 其方儀山刀ヲ以テ平民齋藤平藏ヲ及傷シナカラ右口供ヲ翻異シ根
 棒ヲ以テ毆傷シ素ヨリ殺意アリシニ非スト申供シ承招ニ服セスト
 雖モ其及傷タルハ醫師ノ診斷書ニ於テ明白ナリ加之殺害スルノ意
 匠無之ケレハ山刀ヲ以テ切り付候所謂無之ト親ラ供出スルニ於テ
 ハ衷心ニ殺意ヲ生セシヲ彌縫センカ爲ノ棍棒ヲ以テ毆傷セリト捏
 裝スル者ニシテ其臨時殺意ヲ起シ山刀ヲ以テ及傷シタル者トス依
 テ右科改定律例第七十九條ニ照シ仍ホ鬪毆條人ノ肢體ヲ折跌シ
 癱疾ニ致ス者ニ照シ懲役三年申付ル

右毆打セシ棍棒ハ取揚ル

仙臺裁判所詰檢事中川忠純ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十

二年十二月四日ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送付シタル上告
 狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

該犯口供ヲ翻異シタルヲ以テ裁判官ニ於テハ大河原警察ノ口供ヲ
 眞正トシ山刀ヲ以テ斫傷シタリト該處斷ニ及タリ該犯山刀ヲ以テ
 斫傷シタリトセハ出家ノ際山刀ヲ携持セル豈ニ又疑フ所ナシ抑モ
 該夜山刀ヲ携持シ其所ニ至ル所以ノモノ何等ノ意匠ニ出ルトセン
 必ス登時殺意在ツテ預備ヲ爲シタル喋々言ヲ竝スシテ明ナリ然ル
 ナ裁判官ニ於テハ預謀ノ顯蹟ナシトシ例第七十九條ニ擬シ處斷
 シタルハ不當ノ裁判ナリ

第二條

該犯天野留三郎ヨリ依頼ナリト偽リ平藏ニ賭博ヲ勸メ或ハ某家ニ

在リ平藏ト共ニ武之丞ニ賭博ノ約ヲ爲スト雖モ其賭場ヲ指示セス
特リ平藏ヲ昏夜幽僻ノ地ニ誘出シ或ハ平藏ヨリ同夥ノ遅キヲ促サ
レ偶々某家ニ至ルモ敢テ同夥ノ至ルヲ問ハス是レ賭博ニ托シ平藏
ヲ誑誘シタル疑ヒナシ既ニシテ平藏前後モ知ラズ睡服セルヲ窺ヒ
嘗テ携持セル山刀ヲ以テ面部ヲ目的トシ數回斫傷ニ及タリ是レ昏
夜幽僻ノ地ニ誘出シ時機ヲ量リ以テ兇暴ヲ逞スル者ニシテ決テ一
時逕情殺傷スルモノニ非カルナリ

第三條

該犯曩ニ檢事ニ供述セル平馬妻「キワヨ」ナル者ト姦通致シ居云々平
藏ヲ除ケハ自分養子ニ相成ハ必定云々ヲ以テ謀殺ノ原由トス然ル
ルニ裁判官ニ於テハ「キワヨ」病ニ罹リ多年男女ノ交ヲ絶チタリトシ自
ラ一片ノ醫按ヲ添テ陳辨セルヲ信認シ該犯姦通ノ理ナシト決セリ

又タ斷然暇ヲ乞ヒ立去ント隨意ノ口供ヲ信認シ養子タラント欲ス
ル意匠ナシト決セリ抑モ「キワヨ」ノ姦通ハ閨房曖昧ノ事ニ屬シ醫案
大ノ一証ニ付シ姑ラク措テ論セサルモ右暇ヲ乞ヒ立去ラントシ給金
不足ヲ補ハン爲メ武之丞等ニ賭博ノ事ヲ勸メタリト陳述セリ該賭
博ノコタルヤ已ニ前條ニ論辨スル如ク全ク平藏ヲ誘出スル計策ノ
ニ然レハ則チ雇主ノ已ニ暇ヲ出サント給金計算ノ事アルニ乘シ一
時言ヲ巧ミ供述シタルナリ然ルニ獨リ裁判官ニ於テハ其巧言ヲ偏
信シ檢事ニ爲シタル口供ヲ誣服ニナリタルト煙滅シタルハ是レ豈
ニ不法ノ裁判ナラスヤ且ツ其ノ養子タラントシテ非望ヲ抱キ以テ
兇暴ニ及タルハ前後ノ實況ヲ參考セハ自ラ判然タリ

第四條

裁判官ニ於テ姦通云々及ヒ甲ノ養子タラント欲スルノ口供ハ該犯